

震災後5年を迎える

神戸の市民文化復興状況に関する調査

— 阪神・淡路大震災をはさんだ市民文化活動の動向を中心に —

(財) 神戸市民文化復興財団

# 目 次

< は じ め に > .....	1
1 震災と神戸の文化活動の動き .....	1
(1) 壊滅的な被害 .....	1
(2) 混乱から復旧時 .....	2
(3) 震災後に生まれた様々な文化活動について .....	3
2 震災前後で比較する文化関係各種データ及びその検証 .....	9
(1) 各種文化活動団体の活動についての比較 .....	9
①震災前後の活動状況の比較（各文化活動団体の活動について 3 択質問から） .....	9
②震災前後の文化活動団体の会員数の比較 .....	10
③各文化活動団体の「震災後の特色ある活動」についての記述調査の状況 .....	12
(2) 市民文化活動等の状況調査 .....	18
①こうべ市民美術展の公募状況からの分析 .....	18
②こうべ市民文芸の公募からの分析 .....	20
③神戸市及び神戸市文化圏への文化行事主催者団体からの後援申請等の状況 .....	21
④神戸市内で行われた音楽関係の興行数の推移 .....	22
(3) 文化施設等における活動等の状況調査 .....	23
①区民センター等公共的文化施設における各種定例講座の開講状況 .....	23
②区民センター等公共的文化施設における大ホールの利用状況 .....	24
③区民センター等公共的文化施設における特目室の利用状況 .....	25
④神戸文化ホールのホールの利用状況 .....	26
⑤主要博物館・美術館等の入場者数の状況 .....	26
⑥近接他都市の文化関係施設の動きとの比較 .....	27
⑦民間の生活文化関連施設の状況 .....	28
3 おわりに（全体的な状況を通じた感想） .....	32
< 資料編 >	
1 市内の主な各種文化施設の被害状況・再開状況 .....	36
2 神戸市民文化振興財団が係わった被災者慰問事業等の実施状況 .....	39
3 平成7年一年間に市内で行われた主な被災者慰問事業等の開催状況 .....	42
4 「ふりかえる、あれから1年PART I・II」（「KOBE C 報」平成8年1月号・2月号） .....	54
5 近接他都市の文化関係施設の動き .....	57
6 「神戸の市民文化活動の復興状況」特集記事関係（「KOBE C 報」平成12年2月号） .....	62

平成11年12月 1日

# 震災後5年を迎える 神戸の市民文化復興状況に関する調査

— 阪神・淡路大震災をはさんだ市民文化活動の動向を中心に —

(財)神戸市民文化振興財団

## <はじめに>

あの忌まわしい阪神淡路大震災からまもなく5年。被災者の自力再建や恒久住宅等への移転に伴い、まもなく仮設住宅も解消されようとしている。

この5年間、市内の復旧・復興は急ピッチで進み、とりわけインフラ施設の復旧・復興にはめざましいものがあった。

一方で、市民の文化活動について震災後どのような状況にあるのか、裏付けるような具体的データ等について触れることはほとんどなかった。

そこで、震災後5年を迎えようとする今、当財団では、現状を確認し記録として残しておくために、人々の記憶・データが風化する前に改めて何点かの調査を行い、できるだけ客観的な数値や震災後に生まれた文化活動に関するコメントで裏付けを試みてみた。

これらの調査が震災から神戸の文化活動がどのように復興してきたかを知るひとつの手がかりになれば幸いである。

但し、文化活動を数字で表すことは非常に困難であるため断片的にならざるを得なかったこと、また指標として捉えたデータの確実性・指標として選んだものが適当であったか等も含め、この調査が震災後の文化状況のすべてを捉えきれているものでないことについては、予め冒頭でお断りしておきたい。

また、今後も引き続き市民文化活動、市民文化の復興状況等の把握に努めていきたいと考えている。

## 1 震災と神戸の文化活動の動き

### (1) 壊滅的な被害

平成7年1月17日未明に発生した阪神淡路大震災により、神戸を初め兵庫県南東部は壊滅的な被害を受けた。

震災は、市民生活全般や社会経済活動全体等を根底から覆す大きな打撃を与えたが、文化の面でも神戸文化のソフト・ハードの両面に対して大きな被害を及ぼし、多くの文化事業を進める場が失われただけでなく、市民が文化を享受・創造する場と機会が損なわれた。

文化施設においても、神戸国際会館・神戸新聞会館・阪急三宮駅ビルが全壊するなど官民合わせて壊滅的な被害を受けた。(市内の主な各種文化施設の被害状況・再開状況は、別表資料編1を参照)

被害が軽微であった施設においても、市民生活すままならぬ中で、コンサート等市内での文化活動がすべて中止若しくは延期された(当財団においても、1月25日～2月5日公演予定の神戸シェイクスピア劇場「オセロー」、1月29日開催予定の「K O B E フレッシュ・コンサート」等の中止を決定)。

また当財団が管理運営する神戸文化ホール、区民センター等も程度の差はあるがすべて被害を受け、神戸文化ホールなど4施設が避難所となり、避難所運営を含む災害業務への従事が緊急課題となった。このため、本来業務はすべて停止を余儀なくされた。

## (2) 混乱から復旧時

そのような状況の中、2月初旬頃から恐らく被災した子供たちの元気を取り戻そうと、ということで大道芸や紙芝居など、全国各地から駆けつけたボランティアによる避難所での「慰問」と称した活動が行われた。

この頃は歌舞音曲について市民の皆さんがどんな反応を示されるのか、文化関係者も手探りの状態であったが、こうした活動に勇気づけられて慰問活動の輪の広がりへと繋がったものと思われる。

そんな中で、2月11日～4月23日まで比較的被害が軽微であった新神戸オリエンタル劇場が「K O B E A I D」と銘打って全国から映画、音楽、演劇、お笑いなど様々な文化人による58の慰問公演の受け入れを行ったが、総入場者33,000人を数えホールが常にほぼ満員であったことから、いかに多くの人々が震災の痛手や、傷ついた心の癒しや、やすらぎ、潤いなどを「文化」に求めていたかをうかがいすることができる。

(なお、「各種文化施設の動き」は、7ページを参照)

このように震災後被災市民の心を癒し、励ますための慰問活動やチャリティ公演が市内でかなりの数で行われたが、当財団にも内外の文化芸術団体などから受け入れ先の調整、会場の紹介、入場者の募集などの申入れが相次ぎ、当財団の慰問演奏会に対する支援も、2月15日にスタート。

テレマン室内管弦楽団や、自衛隊音楽隊、アメリカのセントルイス交響楽団、小沢征爾指揮・新日本フィルハーモニー、泉谷しげる「日本をすくえ'95」など幅広いジャンルのチャリティ・コンサートの支援を行った。

震災から約1年以上にわたり、日本各地を初め世界からも様々な著名文化人が来神し市内各地で各種の心温まる被災者激励・慰問活動を活発に行ったことで、多くの市民の心の痛みを和らげ、傷ついた心に潤いを与えてくれたことはまぎれもない事実である。

もちろん、被災体験を共有する地元文化関係者・団体による被災者慰問活動も活発に行われた。

なお、当財団が係わった被災者慰問活動年度別後援件数の状況は下記表のとおり、また内容については別表資料編2の「神戸市民文化振興財団が係わった被災者慰問事業等の実施状況」を参照。

また、「平成7年一年間に市内で行われた主な被災者慰問事業等の開催状況」は、別表資料編3を参照。

なお、当財団の積極的関与は震災から主に1年間。

それ以降、無料チャリティ公演の地元文化団体等の本格的な活動開始に与える影響等も踏まえ、極力関与を控え、自主的な展開に委ねた。

### <当財団関与が係わった年度別被災者慰問活動後援件数の推移>

	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	通算合計
開催回数	25件	36件	6件	2件	2件	2件	73件
入場者数	7,550人	22,909人	2,060人	350人	450人	750人	34,069人

\* 震災後のチャリティコンサートについては、地元文化関係者からはその功罪につき意見が分かれる。震災直後の混乱の中で心に潤いを与えた点については大いに評価されるが、無料公演が長く続いたため聴衆の無料公演慣れが進んだため、有料公演への切り替え時に地元文化団体が本格的に活動を進める上で、円滑な公演の運営に移行するまでに時間を要するなどの面が見られたという意見もあった。

更に、ライフラインの復旧に合わせるように、心を癒すための音楽や演劇などの被災者  
激励慰問公演などの文化情報を求める声も強くなり、また全国各地の文化関係者からも  
神戸市民のための激励メッセージなども寄せられたことなどから、市民の文化情報誌「  
K O B E C情報」を平成7年4月に復刊。

少しでも明るい話題を届けるため、避難所でも配付し、情報提供を行った。

また、震災後の当財団の最初の市民文化振興事業として、昭和48年から行っている「  
こうべ市民文芸」の作品募集を震災でも途切れさせることなく、又例年の時期（毎年秋  
）より繰り上げて、平成7年7月から公募を行った。

震災体験を文章に表現し、作品の創作活動をすることにより、傷ついた心を癒し元氣  
を取り戻していただくとともに、作品を読んだ方々にもその体験を共有することにより  
心の痛みを和らげることができたというので、「阪神大震災に寄せて」をテーマと  
して市民公募を行ったが、つらかった気持ち、思わぬ優しさに触れて嬉しかった気持ち  
など、震災を通しての思いや体験を作品に込めて多数の応募があり、以後の市民文化振  
興事業を展開していく上での大きな弾みとなった。

### (3) 震災後に生まれた 様々な文化活動について

震災直後の2月、神戸の文化を自らの手で守り、芸術家自身も新しい神戸文化の再生  
・創造のために力を結集するという理念のもと「アート・エイド・神戸」の活動がスタ  
ート。当初の被災芸術家への緊急支援や文化創造活動に対する助成に加え、震災を作品  
として制作し発表する活動の支援、震災を風化させないための東京や釧路での発表など  
、幅広い活動を展開し、今年で5年目を迎えている。

文化施設や劇場・稽古場・事務所・アトリエ等の倒壊、被災地の厳しい経済状況など  
により、中止・中断を余儀なくされた文化活動は多いものの、アート・エイド・神戸な  
どのように、震災後生まれた文化活動や震災を踏まえて活動内容等を変更した文化活動  
など、震災を契機として育って来ている様々な文化活動を、「これからの神戸文化の新  
しい光」として捉えることはできないだろうか。

以下、震災を契機として、或いは震災後に、特徴のある新しい文化活動が多数生まれ  
てきているが、すべてを網羅することはできないので、ここでは代表的なものを紹介さ  
せていただくこととする。

#### ①「アート・エイド・神戸」

神戸芸術文化会議の当時の議長である伊勢田史郎氏を実行委員長に神戸の文化復興  
運動として、震災直後の2月に発足（事務局長を海文堂書店の島田誠氏が担当）。

前述の活動以外にも、「詩集・阪神淡路大震災」や詩画集「鎮魂と再生のために」  
の発行、震災で亡くなった画家の追悼展、がんばろう神戸コンサート、工事現場板囲  
いの壁画キャンペーンなどユニークで息の長い活動を続けている。

#### ②「アクト・コウページャパン」

神戸市の姉妹都市であるフランスのマルセイユの様々な芸術家が共同で義援イベン  
トを開催して支援をいただいたことに応え、震災の年から連帯・交流の活動を行って  
いる。

代表は中川博志氏、事務局はジーベックプランニングディレクター下田展久氏。  
トウキョウマリリングギャラリーでのアクト・コウペーフランスとの写真交換による  
交流展などを開催。神戸側では後述のCAPも加わっている。

③「アンサンブル神戸」

平成8年11月震災後の地域芸術文化活動を盛り上げていく機運を発展させていこう  
と、フルート奏者の矢野正浩氏を代表に、神戸・阪神間の若手音楽家による室内オー  
ケストラとして結成。音楽監督に阪 哲朗氏を迎え神戸新聞松方ホールを拠点として  
定期演奏会を行う傍ら、阪神淡路コミュニティ基金の補助等を受け、仮設住宅などで  
の慰問演奏会や、小・中学校での移動音楽教室なども行った。

④「C・A・P（芸術と計画会議）」

平成6年秋に設立された関西在住のアーティストと美術愛好家による非営利組織。  
アートを通して人と出会い語らうコミュニケーションの場をつくるための文化活動  
を推進することを目的とする。

代表は美術家の杉山知子氏。街全体を美術館として楽しもうという企画の旧居留地  
ミュージアム構想を神戸市に提案。震災後、参加者にモノクロカメラで旧居留地を撮  
影してもらい、その写真展を行うなどの街を使った文化イベント「CAPARTY」  
を毎年秋に開催している。前述の「アクトコウベ」との連携も行っている。

⑤「神戸アートウォーク」

文化施設の修復や再建がほぼ揃った平成11年度、神戸市内の様々な文化イベント主  
催団体が手を携えてネットワークづくりを進め、秋の文化シーズンに神戸で多くの魅  
力ある文化イベントが展開されていることを、市内外の人々に知っていただく共同告  
知を行い、市内外からの一般客の積極的な参加を促進し、神戸の秋の文化シーズンを  
盛り上げよう、そしてそれだけに止まらずスタンプラリーという形態で各主催者が横  
の連携を取って各イベントを繋いで相互に関連付けを持たせることにより、芸術鑑賞  
+αの魅力で市内外の多くの人々に何度も神戸を訪れていただき楽しんでいただくこ  
とにより、「文化」を切り口にした神戸のまちの賑わいの創出・街の活性化の一助に  
繋げようという試みで、神戸のまちづくりに繋げる機能を持った新たな取り組み。

⑥「神戸アートビレッジセンター（KAVC）」

「芸術の村」としての新開地再生の核を担う若手芸術家育成のための創造型芸術文  
化施設として平成8年4月に開館。

事業の柱は、小劇団・小劇場系の演劇、関西発のシルクスクリーンを中心にした現  
代美術、アート・ミニシアター系映画などの映像部門など。

若手劇団との提携公演「チャレンジシアター」や関西若手美術家による現代美術展  
「神戸アートアニュアル」などのプログラムも定着。先進・前衛的な映画上映を行う  
「KAVCキネマ」などは、従来大阪まで出掛けなければ見られなかった映画がライ  
ンアップされ人気も高い。

⑦「神戸新聞松方ホール」

神戸ハーバーランドに平成8年9月オープン。自然木をふんだんに使用し音響効果

に優れており、クラシック音楽関係者からの評価が高い。前述のアンサンブル神戸の活動拠点。ホワイエを利用して若手演奏家の演奏機会の提供も行っている。

運営を担当する神戸新聞文化財団では、平成9年に兵庫県ゆかりの活躍が期待されるクラシック音楽の若手音楽家の活動を顕彰し支援するため「松方ホール音楽賞」を創設し、以降毎年表彰を行い文化の振興活動を展開している。

#### ⑧「神戸100年映画祭」

平成8年秋に、日本で初めて映画が神戸に上陸してから100周年を記念し、そして映画文化の復興を願って開催。1回目のテーマは「人間復興」だった。

2回目からは世界の都市や地域を順次特集して、映画を通じて見知らぬ人々の固有の文化を知り、絆を築き上げようという目的を掲げている。

なお、従来の「神戸国際映画祭」とは第3回から合併した。平成10年度からは故淀川長治氏をしのぶイベントも併催。

#### ⑨「神戸フェニックスジャズフェスティバル」

甲陽音楽学院の菅内氏が震災からの音楽（ジャズ）の復興を祈り、また震災に見舞われた神戸を復興に向けて元気づけるため、平成7年夏に開催し以降毎年夏に開催。

小曽根真やゲイリー・バートン、タイガー大越の各氏など、提携校であるアメリカのバークリー音楽大学の協力を得て開催している。

神戸ジャズストリートがクラシカルなジャズを中心とした秋の神戸の風物詩として全国に発信するジャズイベントであるのに対し、モダン・フュージョン系を中心にした真夏のジャズイベントとして定着化に努めている。

#### ⑩「神戸ミュージカル」

「愛」と「勇気」と「夢」を合言葉に、ミュージカルを通して「子どもたちの心の復興」と神戸の文化復興に繋がればと、人材派遣会社「パソナ」グループの南部靖之代表の呼びかけで平成9年より毎年夏を中心に開催。

平成10年には、「神戸を日本のブロードウェイに」と公募によるミュージカル劇団「劇団『夢』サーカス」を発足（代表 浮島智子氏）。「多くの人の力で子どもたちに豊かな未来を」ということで、被災地での激励公演を続けている。

#### ⑪「神戸ルミナリエ」

大震災の犠牲者への鎮魂と神戸の再生・復興への希望の光として、光の彫刻と言われる芸術空間「神戸ルミナリエ」が平成7年12月に開催され、以来震災の記憶を未来に語り継ぐ神戸の冬の風物詩として多くの人々に大きな感動を与えている。

神戸ルミナリエ実行委員会が開催、平成10年度には500万人を超える観客が神戸を訪れた。

#### ⑫「コミュニティFM」

現在神戸市内には、震災直後に在日外国人向けの放送を始めた2局が合併した「FMわいわい」（長田区を中心としたエリア）と、中央区を中心とした「FM MOOV」の2局のコミュニティFM局がある。

とりわけ「FMわいわい」は地域社会での多文化・多民族共生のまちづくりを理念

に様々な活動を行っている点がユニーク。

地域に根ざしたコミュニティFM局として初のギャラクシー賞（放送界の権威ある賞）を平成10年に受賞した。

⑬「元町ミュージック・ウィーク」

元町商店街の音楽好きの商店主達を中心となって震災の年の秋から元町界隈にある喫茶店や、楽器店のサロン、洋菓子会社のホールなどでクラシックのミニ・コンサートを開くなどユニークな活動を続けてきたが、こうした活動を通じて神戸・元町を「文化」というキーで再生しようと地域ぐるみで「音楽によるまちおこし」を行おうとする運動に取り組み、元町商店街の支援を得て、平成10年10月に第一回を開催。

ストリートコンサートや、サロンコンサート、出前コンサートなど様々なスタイルで様々なジャンルの音楽が鳴り響く「人の心に響くコンサート」の催しを開催。

キーワードは、手作り、人が輪になって輪の中にハーモニーが生まれ、心の和が響く、ミュージックフロム元町。

実行委員長は神戸風月堂の下村俊子氏、事務局長は丸太やの三木久雄氏が担当。

⑭「リ・アンサンブル」

「被災地に音楽を、被災した音楽家に仕事を」を目的に結成。震災による心の傷を癒すとともに、被災地の音楽家にも仕事の場が与えられるようにフリーの音楽家が登録制でアンサンブルを組み、市民・企業からの寄付・出資金を募って、震災後3年間、被災地で約80件余りの慰問演奏を続けた。代表はコントラバス奏者の南出信一氏。

⑮「アニメーション神戸」

震災で現代社会における情報ネットワークの重要性が再認識されたが、情報コミュニケーション都市づくりを進める一環として、情報技術と文化をつなぐ「神戸国際マルチメディア文化都市構想」が神戸市で推進されている。

その核プロジェクトとして特に世界的に評価の高い商用アニメーションの顕彰事業を中心とした「アニメーション神戸」を平成8年度から開催。

「アニメーション神戸賞」を設けて、優秀な作品や制作に携わる個人を表彰するなど日本アニメ界のユニークな文化振興事業となっている。

その他実行委員会を組織して各種イベントを実施し、アニメーション文化とデジタル技術の融合を通じて、神戸における人材の発掘、育成に努める試みなどを行っている。

⑯「各種地元文化団体の震災をテーマにした主な活動」

詳細については別表資料編4の「ふりかえる あれから1年Part I・II」(KOBE C 情報誌11月号・2月号)を参照ください。

ここでは、その主なものについて触れることとします。

(地元演劇界)

多くの劇団が稽古場や事務所等の倒壊など大きな痛手を受けたが、団員一丸となって再建に取り組み、道化座による全6回《生きる》シリーズ、四紀会による「火の華・サイタ」、青い森「見えないネコ、声を出せない僕」、自由人会「6年3組の阪神



大震災」など各劇団による震災を題材にした創作劇の上演のほか、市民がつくる朗読劇「五十年目の戦場・神戸」など地元演劇界においては、各種公演が活発に行われ、各方面から高い評価を得た。

どんなに苛酷な状況に置かれようとも、生きる喜びを見い出そうとした人々の姿を描いた作品「ひょうご舞台芸術第9回公演～GHETTO/ゲッター」は、被災地の復興を目指す人達の姿とも重なり大きな反響を呼び、第37回毎日芸術賞・第3回読売演劇大賞などを受賞。

また道化座も日本演劇興行協会賞を受賞するなど「立ち上がる被災地神戸の姿」を全国に発信した。

#### (地元舞踊界)

舞踊界においても、貞松浜田バレエ団の「がんばろう神戸」の上演や、前衛舞踊家による身体表現などの活動が行われた。

また県内・市内の舞踊家が協力して、震災の被害から立ち上がっていく人々の姿やわが街への讃歌・感謝の祈りを表現する新作舞踊「空と海と山の間に」を制作し、復興へ向かう力強く華麗な舞台を披露するなどの活動を展開している。

#### (地元音楽界)

多数の音楽家が被災した中から立ち上がり、激励慰問音楽会の開催や出演などを通して被災者に大きな心のやすらぎを与える活動や義援金を募る活動を展開。

兵庫県音楽活動推進会議では毎年1月に「よみがえれ神戸 はばたけ 兵庫の音楽家たち～フェニックスコンサート」と題し、震災復興を祈るコンサートを開催している。

また同コンサート及び前述のアート・エイド・神戸主催のコンサート等において、「詩集・阪神淡路大震災」収録詩に作曲を行って作品の発表を行う活動も展開している。

#### (地元文学界)

被災地の文化復興の一助になろうとするアート・エイド・神戸の運動の一つとして計画された前述の「詩集・阪神淡路大震災」（伊勢田史郎・志賀英夫・直原弘道・松尾茂夫・安水稔和・和田英子各氏が呼びかけ人となり155人が参加）の発刊を初め、個人レベルにおいても文学表現活動に震災が与えた影響は大きく、大きな衝撃の中から立ち上がった多数の文人が、詩・短歌・俳句・川柳・小説・短編・エッセイなどの各分野で様々な形の発表が行われ、これらの作品を通じて全国の人達に被災地・神戸の惨状を伝え、大きな感銘を与えた。

#### (地元美術界)

美術関係では、前述のアート・エイド・神戸の運動の一つとして洋画家長尾和氏と25人の詩人たちによって制作された詩画集「鎮魂と再生のために」を初め、多数の美術家が震災で倒壊した風景や街並みを描く創作作業を展開、また震災に題材を求めた鎮魂の作品の創作なども様々行われた。そのような中で西田真人氏が震災後の空き地を描いた「更地」が平成9年に第14回山種美術館賞優秀賞を受賞した。

書関係でも、多くの会員が被災したが、全員一丸となってそれぞれの道具を持ち寄り、活動の場を捜し合い共同協和する中で、これまでの活動を中断させることなく一

歩でも前に前進しようという情熱と努力で、震災の思いを込めた書作品展の開催を行うなどの活動が進められた。

⑰芸術文化活動を支える各種文化施設の動き

詳しくは、別表資料編4の「ふりかえる あれから1年PART I・II」(KOBE C情報報8年1月号・2月号)に掲載しているとおりである。

被害程度が比較的軽微であった新神戸オリエンタル劇場が前述の「KOBE AID」として被災地内外からの各種チャリティ公演・興行の受け入れを行った外、震災後早期に修復を終えた神戸朝日ホールでも地元文化活動団体からの慰問公演の使用要請に応えホールを無料提供、またここを会場にアート・エイド・神戸の音楽部門の活動がスタートするなど市民を励ます演奏会等への場と機会の提供を積極的に行った。

その他神戸阪急ミュージアム・映画館なども震災後相次いで修復・再開し、市民を励ます展覧会や映画の無料上映などで市民に心の潤いを与えた。

このような各種文化施設の動きが、芸術文化活動に弾みをつけ、文化の復興の立ち上げに寄与するとともに、その後神戸国際会館ハーバーランドプラザ(のちに三宮・神戸国際会館こくさいホールへ)や、神戸アートプレッジセンター・神戸新聞松方ホール・大丸ミュージアムKOBE・神戸ポートピアホール・神戸ファッション美術館などの各種文化施設が順次新たにオープンし、芸術文化の活動や発表の場が更に広がり、文化の復興をより確かなものへと繋げる役割を果たしたと言えよう。

## 2 震災前後で比較する 文化関係各種データ 及びその検証

この項では、文化活動団体代表者に対するアンケートや、市民の文化活動参加状況、各種文化施設数などの震災前後のデータを比較することで、市民文化活動等が現在どのような状態であるのか検証することを試みている。

なお、震災前後の比較については、基本的に震災前の平成5年度(1993年)又は平成4年度(1992年)と、平成8年度(1996年)及び平成10年(1998年)のデータを比較。

### (1) 各種文化活動団体の活動についての 比較

当財団が平成11年8月に実施した「神戸市文化活動団体調査」において、文化活動の復興状況を把握するため各文化活動団体代表者へのアンケート調査を同時に実施した。

この項では、上記調査による各代表者の総合的判断に基づくデータ等をもとに以下のとおり分析を試みた。

#### ①震災前後の活動状況の比較 (各文化活動団体の活動について 3択質問から)

アンケート調査の質問設定の一つは、次のとおりである。

○震災前と比較して貴団体の活動状況はいかがですか? (\*いずれかに0をご記入ください。)

- ① 現在の方が活発である。
- ② 震災前と変わらない。
- ③ 震災前の方が活発である。

このアンケート調査の結果、平成11年11月末現在の集計状況は次のとおりである。

大分類	①現在の方が活発である	②震災前と変わらない	③震災前の方が活発である	④無回答	合計
文 芸	6	8	3	7	24
美 術	32	49	11	20	112
音 楽	27	30	16	17	90
演劇・舞踊	11	14	9	7	41
茶・華道	1	1	1	0	3
学 術	2	0	0	1	3
その他	8	11	4	2	25
合 計	87(29.2%)	113(37.9%)	44(14.8%)	54(18.1%)	298

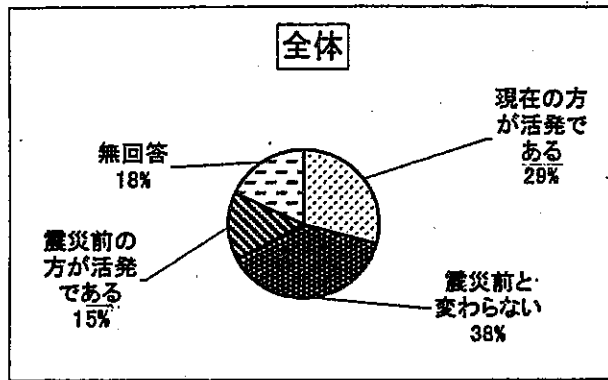
以上のように — 活動団体のうち約3割の団体が「現在の方が活発である」と回答、「震災前と変わらない」の約4割を含めると、実に2/3に当たる68%の団体が震災によって活動が後退したのではなく、活動状況を前向きに捉えていることがわかる。

この傾向は、各分類別に見ても概ね同様の結果を示していることがわかる。

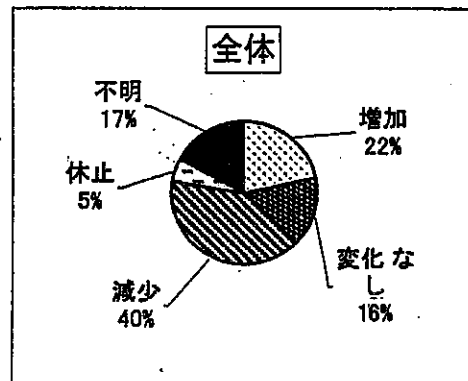
また、このことは次に分析した会員数等との比較との中でも、興味深い現象を示しているのて、後述する。



<震災前後の活動状況の比較表>



<震災前後の会員数の比較表>



## ②震災前後の文化活動団体の会員数の比較

震災前の平成5年3月に発行された「神戸市文化団体名簿'93」に掲載されている団体について、今回の調査での回答のあった会員数（平成11年11月末現在回答のあった団体）と比較分析を行い、次のような結果を得た。

大分類	①震災前より増加	②震災前と変化なし	③震災前より減少	④休 止	⑤不明	合 計
文 芸	3	7	11	3	4	28
美 術	21	14	41	6	17	99
音 楽	12	5	20	0	10	47
演劇・舞踊等	7	5	6	0	6	24
茶・華道	0	1	3	0	0	4
学 術	2	1	1	2	0	6
その他	4	3	9	1	2	19
合 計	49 (21.6%)	36 (15.8%)	91 (40.1%)	12 (5.3%)	39 (17.2%)	227

以上のように、「震災前より会員数が増加」した団体は約2割、「震災前と変化なし」の団体が16%とこの二つを合計しても、37.4%と約1/3強の団体であった。

これに対して、「震災前より減少」した団体が約4割、「休止」の5.3%を含めると、実に45.4%と約1/2弱の団体がマイナスを示している。

これは恐らく被災者の避難や住宅の喪失等による居所変更、人口流出等の要因が影響しているものと考えられる。

今後被災者の恒久住宅等への定住等の定着化に伴って変化が出てくるのではないかとと思われる。

ここで注目したいのは、会員数はマイナス面があったにもかかわらず、上記①の調査で出た文化活動団体の活動はむしろ活発に行われているとされている点にある。

会員数は減少しても、むしろ先にも述べたように被災した人々の心のケアなど震災復興に向けて文化活動の果たしてきた役割を各団体が非常に重要なものがあると認識されて結束して「特色ある活動の展開」や、「震災体験を風化させないための活動の展開」などに前向きに取り組まれている姿が現れているのではないかと考えられる。

また、自分達が行う文化活動が被災した人々はもちろん、演ずる側の会員にも生きる勇気や希望を与え、人と人、心のつながり、相互の絆を深め合うことの素晴らしさなど、地域や社会全体のために役に立っているという充実感をもたれて活動を積極的に展開されているなどのことから、感覚的にも現在の方が活発と捉えられているのではないかと推測される。

なお、今回のアンケート調査の意見欄の中から、そういったものが垣間見られるものを参考に以下のとおり少し紹介しておきたいと思います。

#### <参 考>

- 「震災後の4月には「兵庫百選」と題し、水墨画展を2週間開催しました。来場の被災者の方々より「心が洗われました。」「頭の整理ができました。」「もう一度家を再建する勇気が出ました。」等々、涙を浮かべて喜んでいただけました。墨色のもつ魅力の大きさに感動と感謝を再認識し、一層の精進を心しました。
- 「会員とその家族の多くが被災しました。チャリティコンサートでは演奏する側、聴く側ともに勇気づけられ感動しました。これ以来、観客と一緒に「聴きに来てよかった」と言ってもらえる演奏会になる企画を考えるようになりました。」
- 「長田区震災復興コンサート」「おもしろ音楽博物館」「ピフレホール オープニング及び開館1周年記念コンサート」等、身近で素晴らしい演奏を聞いていただくことで、心の復興と少しでも潤いのある時間を過ごして頂ければと活動しています。音楽を通じてより豊かな財産を心に貯えて、会員と一緒に豊かなまちづくりに貢献できれば幸いです。」
- 「震災を経験し、「生きている喜びを、生かされている尊さを！」そして多くの死者に対して私たちは何ができるのか、つらく困難の連続の中で、倒れる寸前までがんばりたい、共に生きていることを共有したい！と願い、公演活動、指導活動を続けてきました。震災直後は半減しましたが、多くの方々の支援支持によって、震災前より活気を持つまでになりました。」
- 「演劇で少しでも勇気づけられればと、劇団の協力を得てボランティア公演を続けています。」
- 「震災後、被災者の心を文化を通して癒していきたいと願い、さらに21世紀の長田の街を若い子供達に託すため、活動を開始しました。」
- 「主宰初め会員の住居全壊等の被害が多数に及び、一時は会員数も激減しましたが、会員相互の励まし合いにより、徐々に復活し、一度の俳誌休刊もなく、以前にもまして会員相互の「和」をモットーとして「茶句」の精神を基本におき、句会、吟行等を実施し会員の親交をより深めています。」
- 「大震災で二宮の活動の場を失い、つらいこともありましたが、「絵が描きたい。」「描こう。」と会員は元気で、会は傷ついていませんでした。「パステルの灯を消すな！」を合言葉に互いに励まし合い、他の同好の人たちと合同で再出発！開けなかった展覧会は平成8年6月に開ける運びとなりました。
- 「会員の殆どが罹災し、半数の者が家を失い負傷などしましたが、生活の中から実際の感動を作歌の基本としていたことが、会員相互の絆を一層強くしました。短歌は見かけの言葉や美辞麗句でなく、心の表現である、との自覚が連帯感を高め、作歌意欲の向上につながっています。」

- 「震災後、会員が少なくなりましたが、残った人達で出来るだけ早く心の落ち着く水墨画を多くの方に楽しんでもらえるよう「まちづくり会館」「ギャラリーメトロ」で作品展を開催しました。」
- 「震災後は速やかにその消息を調べ会員間の物心両面の援助は随所に見られました。そして9月には早期立ち直りを期して、壮年大会を開催する等の活動を開始し、徐々に会員が復帰してきており、詩吟が大きな心の拠り所となったと思います。」
- 「震災直後は確かに「民謡どころでは……。」の感がありましたが、被災された方々の方がお稽古の再開には積極的でした。人と人、心のつながり、趣味を持つことの素晴らしさだと思います。震災直後は各会員も減少しましたが、現在はほぼ戻った感があります。」

### ③各文化活動団体の「震災後の特色ある活動」 についての 記述調査の状況

そこで、神戸文化を根っこから支えている各文化活動団体が、震災後どのように活動を展開されているのかを当財団が実施した「神戸市文化活動団体調査」に基づくアンケート調査から分析を試みた。

アンケートの設定項目は次のとおりである。

○震災後の特色ある活動があれば、ご記入ください。

各文化活動団体のアンケート調査の記述を一つひとつ拝見している中で、前項で紹介した「震災後に生まれた様々な文化活動」以外にも、震災を契機に新しい試みや新しい息吹や芽生えのようなものが沢山現れてきており、次のような共通点的特徴を見いだすことができました。記入された貴重な記述（原文のまま抽出・記載）も参考に紹介します。

これらはいずれもこれからの21世紀の文化活動団体のあり方・方向を示す一つの道標ともなる動き・取り組みではないかと思われる。

#### <共通点的特徴>

- (1) 震災を契機に以降継続して慰問活動やチャリティ文化活動、震災義援コンサートなどの開催に取り組むなど、社会や地域への貢献活動を進めている。
- (2) 震災を契機に地域の団体との連携にも取り組み始め、また地域に根ざした活動、地域のまちづくりに寄与する活動をより発展させようとしている。
- (3) 震災の際に支援いただいた外国の都市や日本の各地域の文化団体や文化人と、その後持続的な交流が始まり、こうした交流を通して異文化交流や新しい芸術創造運動へと発展させる動きが出てきている。
- (4) 震災を契機に他団体との連携や、会員相互の絆を一層緊密にするようになったこと、またより開かれた会・団体への転換を図る取り組みを進めている。
- (5) 「震災後の神戸のまち」や「震災」をテーマにして創作した作品を題材にした活動を展開されたり、またこれらを全国に広げる発信活動に発展させている。
- (6) 震災後の文化活動を引き続き支援する動き。
- (7) 震災後活動を創設したり（前述の1(3)記載のものを除く）、震災体験を昇華させて、新しい芸術文化を創造していこうという取り組みを進めている。
- (8) 震災体験を踏まえ演奏会や公演等の企画内容に新しい方向を打ち出そうと取り組んでいる。

## <参考> アンケート調査での具体的な記述

### (1) 震災を契機に以降継続して慰問活動やチャリティ文化活動、震災義援コンサートなどの開催に取り組むなど、社会や地域への貢献活動を進めている。

- 「団員の多くは激震地区の住まいのため、大きな被害を被りましたが、やっと落ち着きましたが、今なお数名は、止むなく他市に住を移し、遠い地から月3回の練習に参加されています。平成10年春には震災復興第1回チャリティコンサートを開き、来る21世紀初頭には第2回チャリティコンサートを予定しており、団員一同張り切って練習しています。」
- 「毎回公演で約1,000人をボランティアとして無料ご招待しています。対象は障害者、老人施設の人々、被災者等で、生きる勇気と励ましを与え大変喜ばれています。また「重度心身障害者の集い」など地域のコンサートや、各施設を廻ってのミニコンサートなど地域に根づいた活動を繰り返しています。拠点としているホールでの楽しい催しも喜ばれています。」
- 「震災直後の2月、盲老人ホームを訪問交流。以後仮設住宅の催し、心の復興コンサート等々に多く出演しました。96年1月定期演奏会に組曲「阪神大震災」を初演。収益金を3団体に寄贈し、継続しています。同年8月ウィーンで3回目の演奏をしました。99年8月ハンガリーで「しあわせ運べるように」他を演奏。2団体へのチャリティ事業に参加しました。市民の大好評に感激しました。」
- 「平成7年度から毎年夏季(8月頃)に神戸市内のホールでジャズフェスティバルを開催し、収益の一部を震災遺児・孤児のための心のケアハウスの運営基金として寄付しています。」
- 「震災後の2回のコンサートは黒字になりましたので、震災遺児施設に寄付させていただきました。今後もその方針を続けたいと思っています。私自身震災で大切な家族を亡くしています。」
- 「昨年行っていた定期演奏会が震災で出来なかった年、いくつかの団体と一緒にチャリティコンサートをしました。そのコンサートを昨年より復活しました。(収益は「あしなが基金」へ)、また昨年より神戸市立中央市民病院においてコンサートを行っています(「ひまわりコンサート」)。どちらも有意義な事ですので、継続したいと思います。」
- 「震災の年とその翌年は、被災者の方々にもハンドベルを楽しんでいただくとう入場無料で演奏会を開催しました。集まった募金を義援金として寄付しました。平成9年から11年の演奏会の収益金は、震災の遺児育英基金に寄付しました。」
- 「設立後もなかなか実現できなかった演奏会を、平成9年9月ようやく踏み切ることができました。また、会員の中には、キーボードを持って仮設住宅を廻り演奏をしたり、無料のコンサートを開く等して、音楽が少しでも人々の心のなぐさめとなることを願い、精々と頑張ってきました。」
- 「演劇で少しでも勇気づけられればと、劇団の協力を得てボランティア公演を2回、95年10月の再開例会には市内の小・中・高校生の無料招待を行いました。それ以降毎月の公演に被災者無料招待を続けています(現在は仮設の方無料招待)。毎月10数名の方が参加し、演劇を楽しんでいます。会としては仮設がなくなるまで続けていきたいと考えています。」
- 「年に3回のお茶会を開催。特に毎年5月の母の日に、県立三木山森林講演にて震災復興のためのチャリティ茶会を行っています。」
- 「各会員が版画の書中見舞状、年賀状を制作した時に、1・2枚余分に描いて、特別養護老人ホーム入所者へ便りを出すことを始めました。楽しみの趣味が社会の人とのつながりを持てればと考えて活動しています。」
- 「子供達と絵の指導を通してふれあうのみではなく、その作品を鑑賞していただく機会を増やし、ヒーリングの場を提供、また広く障害のある子供達も受け入れ、日本障害者芸術文化協会会員ボランティアアーティストの一人として、アウトサイダーアーティストの育成にも力を注いでいます。施設の訪問、作品の貸し出し、講演、講習会も行っています。」

e t c

### (2) 震災を契機に地域の団体との連携にも取り組み始め、また地域に根ざした活動、地域のまちづくりに寄与する活動をより発展させようとしている。

- 「震災直後長田小学校の児童、被災者のために「励ましコンサート」を開き、その後「被災者の心を音楽で癒したい」と「励ましコンサート」を続けました。1995年7月には「母と子のコンサート」を開催し、小学生の詩に作曲した「地震のうた」を発表しました。今年の4月には、地元の小・中・高校生とプロの音楽家が共演して「白雪姫」を上演しました。地域に根ざした文化活動を続けています。」
- 「従来コンクールを中心に活動してきた感がありますが、震災後は特に地域活動への貢献にも重点を置き、教会でのチャリティコンサートや合唱団の所在地であり合唱活動が大変盛んな灘区のコラスフェスティバルの立ち上げに協力する等、コーラスのすそ野を広げていくことに力点をしています。」
- 「震災後、被災者の心を文化を通して癒して行きたいと願い、さらに21世紀の長田の街を若い子供達に託すため、小・中・高校生の参加を図ってきました。まず区内の高校との連携を強化します。また、広く区民の参加を進めるため、絵画展の出品を区民から公募してきました。さらに今年度は長田区のコラス団体に呼びかけ、合同公演を主催、将来長田区コラス団体協議会を設立することができればと考えています。」

- 「仮設住宅に住む人達に一刻の暇いと思われまいとお願いをさせていただいたのが切っ掛けで、今では老人ホームの慰問に定期的に廻らせていただき、喜んでいただいています。地域のふれあいのまちづくりの方へも行かせていただいています。」
- 「世界の民族音楽を志すミュージシャンとの交流を通じ、神戸を文化の発信拠点とし、心安らぐ音楽を提供したいと思っています。特に震災後は音楽を通じて心安らぐコンサート作りを目指しています。主に神戸の町並みにフィットした世良美術館を拠点とした素晴らしい雰囲気の中のサロンコンサートは、毎回聞きこられた皆様に爽やかな感動を味わっていただいています。いつもどこかで音楽が流れ、身近に聞くことができるまちづくりが目標です。」
- 「長田区震災復興コンサート」「おもしろ音楽博物館」「ピフレホール オープニング及び開館1周年記念コンサート」等、身近で素晴らしい演奏を聴いていただくことで、心の復興と少しでも潤いのある時間を過ごして頂ければと活動しています。音楽を通じてより豊かな財産を心に貯えて、会員と一緒に豊かな街づくりに貢献できれば幸いです。」
- 「震災後は、震災詩集からの歌曲作曲など、地域の詩人との交流が深まりました。楽譜出版やCDリリースなど活動も活発化しています。平成12年6月10日には、第25回記念作品発表会を管弦楽作品展として松方ホールで開催する予定です。」
- 「子どもたちを励ますために、仮設住宅や避難会場などで「がんばれ子どもたち」の人形劇や音楽、お芝居など、プロの音楽団体や劇団などと連絡を取り、講演を開催しました。一年後、子どもを対象にした演劇ワークショップ「神戸シアターワークス」に参加しました。地域の中で表現により、子どもたちの日常を取り戻す活動を展開しています。」
- 「撮影会や写真展を通して被災者の皆様に希望と活力をもっといただくよう努力してきました。これからも地域の多くの方々に写真を楽しんでいただくよう活動を続けていきます。」

e t c

### (3) 震災の際に支援いただいた外国の都市や日本の各地域の文化団体や文化人と、その後持続的な交流が始まり、こうした交流を通して異文化交流や新しい芸術創造運動へと発展させる動きが出てきている。

- 「震災で支援いただいたアクト・コウベ・フランスとの写真交換プロジェクト。毎年1月17日と7月17日に使い切りカメラで各々の一日を撮影。カメラごと日仏で交換しています。作品交換による交流展を神戸で2回、マルセイユで1回。そして今年1月にはメンバー8人が渡仏し、仏のメンバー等と10日間のワークショップ、3日間の展覧+コンサートを行ってきました。」
- 「1995年5月5日「がんばってるよ！子供の日コンサート」を大阪で開催し、多くの被災者を慰めました。同年9月9日箕面市教育委員会に招かれ震災後団員が転校生としてお世話になったお礼として箕面市青少年文化祭で演奏しました。また義援金をいただいた米国カリフォルニア・ユース・シンフォニーを翌年日本に招き6月23日大阪で合同コンサートを開催し大きな友情を築きました。」
- 「日韓の文化・芸術の交流にとどまらず、インドの作家や中国の作家との交流展、また震災時に寄付をいただいたドイツの作家を招待しての展覧会等、多種多様にすそ野を広げています。日本画と韓国画の相違点を見比べるところから徐々に回を重ねることに融和の段階へと入ってきています。会場も大阪中央図書館で行うなど新たな展開にきています。」
- 「震災によって犠牲になった震災遺児の心を癒すため子供たちを招待いただいたポーランドとの友好交流を深めるため、ポーランドの少女合唱団との神戸での合唱演奏会の共演などを通して、互いに異なる文化の交流や友情を深める活動を行いました。」

e t c

### (4) 震災を契機に他団体との連携や、会員相互の絆を一層緊密にするようになったこと、またより開かれた会・団体への転換を図る取り組みを進めている。

- 「稽古場の焼失など、加盟各劇団は大きな痛手を被り、一劇団は休会に追い込まれましたが、劇団員の減少や経済困難を克服しようと、劇団間協力は一段と活発になってきています。また震災を素材にした作品の連続上演など、従来にも増して地域を意識した舞台づくりを展開、「0号発刊」のほか数多く上演されました。」
- 「会員の殆どが罹災し、半数の者が家を失い負傷などしましたが、生活の中から実際の感動を作歌の基本としていたことが、会員相互の絆を一層強くしました。短歌は見かけの言葉や美辞麗句でなく、心の表現であるとの自覚が連帯感を高め、作歌意欲の向上に繋がっています。」
- 「兵庫区の教室に属する会員の方々は多数被災されましたが、会員相互の助け合い、趣味民謡のお陰で精神的にも完全に立ち直りました。特に震災後という意味ではありませんが、発表会やおさらい会を通じ、全会員が集まる機会を増やし親睦会を行い楽しい交流の場を多く持つように心掛けています。」
- 「震災前の40周年の時以来、門下生だけでなく、それぞれの演奏会ごとに広く出演者を求め、開かれた会にするとともに、演奏会の内容の充実を図ってきましたが、震災後その方向が本格的になり、特に今年は50周年を迎えたこともあって、より充実した演奏会を開催することができました。」



- ・「主宰をはじめ会員の住居全壊等の被害が多数に及び、一時は会員数も激減しましたが、会員相互の励ましあいにより、徐々に復活し、一度の俳誌休刊もなく、以前にもまして会員相互の「和」をモットーとして「楽句」の精神を基本におき、句会、吟行等を実施し会員の親交をより深めています。」
- ・「震災で例会場が閉鎖され、急遽他の会場を確保して、句会は3月から再開されました。瓦礫を踏み越えて集まって来た会員達は、等しく無事を喜び、再起を誓い合いました。家屋の全半壊は避けられませんが、死傷者の無かったことが救いでした。そして句に集うということがかほどにまで復興への意欲と生きることへの励みを与えてくれるものなのかと、思いました。」
- ・「震災による心の打撃は大きかったが、互いの絆を強め、震災前のレベルまで復興するところまでできました。会として、特別な活動はとりたてて行っていませんが、作品を制作し、発表することで、多くの人をなぐさめ、励ましてきたと思います。」 e t c

(5) 「震災後の神戸のまち」や「震災」をテーマにして創作した作品を題材にした活動を展開されたり、またこれらを全国に広げる発信活動に発展させている。

- ・「大震災により灘区のスタジオを全焼失するが、いち早く公演を再開、震災後も意欲的に活動を展開しています。96年春より震災を踏まえた創作劇「生きる」シリーズ6作品の上演を企画、99年1月に全6作品上演を完結しました。  
「被災者に勇気と希望を与え、ソフト面での復興に大きく寄与した」として、「日本演劇興行協会賞」「神戸新聞社会賞」等を受賞しました。」
- ・「震災を題材にした「震災3部作」ともいえる創作劇「火の華・サイタ」(95年9月)「ここにいます」(96年4月)「炎・夏四度・こうべ」(98年9月)を上演し、好評を博しました。また同様に、被災者の証言に基づいた市民がつくる朗読劇「五十年目の戦場・神戸」(96年1月神戸を皮切りに全国で上演)の構成から上演に至るまで、大きく貢献しました。」
- ・「阪神大震災で体験した子供達が、強く逞しく生きる様子を描いた「6年3組の阪神大震災」は、阪神間のみの公演ではなく、東京・高知・福岡で上演し大きな反響を呼びました。2000年5月には北海道巡演が決定しています。  
また、震災で失った稽古場も99年12月やっと持つことができます。今後も神戸を中心に大きくはばたいていきたいと願っています。」
- ・「震災直後の4月に全国の支援を受けて、「わわわフェスティバル」を開催しました。復興に文化活動が重要であることをアピールしました。会員出身したポ「五十年目の戦場・神戸」を出版(2000部以上普及)。それをもとに、朗読劇を96年1月初演、以後全国40カ所以上で上演。震災とは何だったのか、惨禍から得られたものを全国に広げる活動をしています。」
- ・「震災で被災した人たちが多く、みんなで協力し合って会場探し、印刷所探しをし、1カ月の休刊もなく神戸港誌発行しました。震災後3カ月より句会を行いました。震災一周年を記念して冠句集「震災を乗り越えて」を発行しました。震災後の神戸港活動を総括し、義援や励ましを頂いた人々に感謝し、報いたいとの願いを込めました。」
- ・「震災直後から避難所でのコンサートに取り組みました。96年には原詩森村誠一、作曲池辺晋一郎の協力を得て、阪神淡路大震災鎮魂組曲「1995年1月17日」を制作発表。同組曲のニュージランドや神奈川公演をはじめ、97年には県下被災地11カ所で縦断コンサートを開催し、50回を超える演奏活動を続けています。来年3月東京公演を予定しています。99年に震災後の活動を綴った「炎と涙の底から」を出版しました。」
- ・「兵庫県の震災復興のシンボルであるフェニックスにちなみ、フェニックスコンサートと銘打った演奏会を年2回-3回のペースで開催しています。  
震災詩集をもとにした歌曲も数多く作曲され、その一部は楽譜出版されたりCDになったりしています。震災復興を願うコンサートも数多く開催又は企画してきました。」
- ・「阪神大震災により、多くの川柳社、川柳会及び川柳人の多数が被災しましたが、これにめげず、県下の川柳活動に動揺はありませんでした。  
震災の句が数多く発表され、これをバネにして立ち上がる姿は誠に尊いものでした。仮設住宅のグループによる新しい川柳会が始まった例もあります。」
- ・「震災直後に芦屋・神戸市内での吹き出しの実施をしました。神戸・姫路・豊岡市で会員の作品及び保有。チャリティを実施し売上金を寄付します。  
季刊誌「半どん」で震災をどう書きとめるかの特集を発行しました。今後も引き続き必要に応じて対応していきます。」
- ・「震災後、全国会員から頂いた見舞金に対するお礼の意味もこめて、会報137号で震災特集号を編集。写真集として発行し、全会員に配付されました。」
- ・「震災直後、いち早く会員有志によるボランティア活動を開始。焚き出し、物資運搬等の協力をしました。ボランティア活動のあい間に震災を記録スケッチした竹中信清会長の絵を愛媛県・岡山県・広島県の各地で展示。震災救援募金を各地の自治体を通じ、被災地に送ってもらいました。  
竹中信清<阪神・淡路大震災>スケッチ集、1995.1.17 AM5:46からの記録 ----- 出版。」 e t c

(6) 震災後の文化活動を引き続き支援する動き。

- ・「被災芸術家への緊急支援・チャリティ美術展の開催・チャリティコンサートの開催・震災を記録する出版物の刊行・震災後の芸術文化活動の支援助成・工事

現場仮囲いへの壁画制作等神戸の文化復興運動として活動しています。

神戸に幻想としての文化ではなく、人生を豊かに彩る真の創造的な芸術文化の風土を作ることを目指しています。」

- 「阪神淡路大震災では6,430名を超える多くの方がお亡くなりになりました。しかし、あきらめずに生きる情熱は音楽や人間愛から芽生えました。音楽活動を励みとするアマチュアの方々を応援しています。」
- 「震災の年、ボランティア公演(入場無料の公演)のオンパレードだったので、私たちは予定した会場が使用できないなどの困難を克服して、有料公演を主催しました。それは文化人・芸術家・芸人の生活権を主張することでもありました。合わせて、会員を中心に被災演劇団体への救援募金活動も行い、支援活動に取り組みました。」

e t c

#### (7) 震災後活動を創設したり(前述の1(3)記載のものを除く)、震災体験を昇華させて、新しい芸術文化を創造していこうという取り組みを進めている。

- 「震災の年、かねてより計画していたコンサート「ストーリーを奏でるピアノコンサート」を「神戸復興支援チャリティコンサート」に切り替え開催しました。会員他皆様の援助を得て満席でした。お蔭で神戸市に80万円の寄付をすることができました。また、会員個々に、またグループでも支援活動を行いました。昨年より文芸と組み合わせた「ピアノ+短詩型文芸」のコンサートを2回開催し、ユニークなものとして好評、話題を呼んでいます。」
- 「震災後に県内詩人たちに呼びかけて、編集・発行した3冊の震災特集が、当会の設立動機の一つになっています。」
- 「阪神大震災で私共も被災し、少なからぬ被害を受けました。高校を卒業すると同時に次第に復興されていく阪神間の町並みを見るにつけ、クラシック音楽によって心の安らぎを少しでも得ることが出来るならばと思い、大学一年の秋、友人二人で考え活動を開始しました。」
- 「能の音楽性を知っていただくよう足したグループですが、本格的に始めたのは震災の年の秋です。被災者と被災企業で何とか被災者に文化を届けたい、そして他の地域の方にも震災の現状を知ってほしいとの思いが強くなりました。お蔭で神戸も復興の歩みがあり、観客の皆さんも能への本質的な知的要求を伝えてくださるようになって嬉しいです。」
- 「フェニックスステーション花隈認定後、多くの活動の場で震災後の人々の心に一灯を点じたくて一念発起しました。高齢者看護、介護、その法律勉強や施設見学会、また映画「地球が動いた日」の親子ご招待、悪徳商法の実情講演会、パスポートについての講演などを通して、お互いの人間関係を深めていきました。今でも市民の、幸福への起爆剤だと信じています。」

e t c

#### (8) 震災体験を踏まえ演奏会や公演等の企画内容に新しい方向を打ち出そうと取り組んでいる。

- 「震災後、ボランティア講座を開催し、多くの方々に喜んでいただくことができました。震災後は、特に草花を見つめ描くことの「いやし」の面を求める方も多く見られます。「はがき絵交流」という人と人のコミュニケーションを大切に活動しています。例 ----- 花いちりんはがき絵交流活動、ポストサークリング、老人ホームでの活動も震災後始めました。」
- 「22回続けてきた「推薦音楽会」を震災後タイトルを新しく「風薫るコンサート」と名づけ、推薦された新進の方々だけでなく、この機会に若い会員の方々にも出演いただくようにしました。その結果、新しい息吹と活気に満ちた明日に向かってスタートにふさわしい会になりました。今後はアンサンブルのステージも入れたいと思っています。」
- 「会員とその家族の多くが被災しました。チャリティコンサートでは演奏する側、聴く側ともに勇気づけられ感動しました。これ以来、観客と一緒に「聴きに来てよかった」と言ってもらえる演奏会になる企画を考えるようになりました。是非我々の演奏会に来場いただき、アドバイス頂ければと思っています。」
- 「震災により会員の生活が分散し、色々影響もありましたが、各位の努力により復活しました。新しい試みとして、昨年は中堅歌人をパネラーとした「短歌フォーラム」を実施し盛況でした。今後も短歌文学の本質を踏まえながら時代に即した運営をしていきたいと思えます。」
- 「会員だけでなく、一般の子ども達にも呼びかけ「忍者ごっこ in 須磨浦公園」を企画し行いました。子ども忍者が総勢270名という大規模な取り組みでしたが、目をキラキラさせて修行に励む子ども達の様子に、会員スタッフも大満足でした。これをきっかけに、お芝居ごっこなどの表現活動も行っていきます。心を解放してあげる時間も必要です。」
- 「会員が個々に被災者の住宅を巡り、各地域で救済活動を行い、無料で能の鑑賞等、能の復興に努めました。被災者に何等かの希望と復興の活路を見いだしていただくよう働きかけました。歴史的背景に富んだ神戸に根ざす古典の発展を願い、市民の健康にも役立つ素晴らしい魅力ある能を理解して頂き、愛好家の多らんことを望み、活動を続けています。」

- 「毎年1月に神戸文化ホールで「こどもの劇場」と題して人形劇公演を行っていますが、震災後観客数が増えています。「どうすれば子ども達の人生を輝かせることができるのか」ということを、ともに考え、芸術性の高い作品を求め創る関係を持ちえる地域です。」
- 「震災後は姫路市立美術館で作品の発表をしましたが、震災後は震災で被災された方々に「位置展」のような現代美術展を鑑賞していただくことで一つの元気を提供できないかと考え、年に1回ほど展覧会を行っています。現代美術の多様な表現を見て知るにより、芸術の楽しさを知っていただき、今後も続けて、見たり参加していただけたらと思います。」
- 「震災後は年2回のクラブ展を行い、アートとしての写真作品を、心の温まる作品を中心に展示し、被災者に安らぎを与えるように計画しました。」
- 「西神地区の仮設住宅の被災者の皆さんに対して、復興の願いと心のやすらぎを与えるため、西神地区で展覧会を開催し、美術鑑賞の機会を提供してきました。今後も、継続して、西神地区の多くの方々に、絵画など親しんでもらえる機会をつくる活動を続けていきます。」

e t c

## (2) 市民文化活動等の状況調査

この項では当財団で把握できる範囲の中で、できるだけ様々な客観的なデータをもとに、震災前と震災後の市民の文化活動の状況の分析の試みを行ってみた。

但し、各関係先で震災による建物全壊等での資料の喪失や、緊急の事務所移転による資料の散逸等があったことなどもあり、特に震災前のデータの収集に困難を極めたことから、すべてを網羅しているものでないことは冒頭でお断りしておきたい。

### ①こうべ市民美術展の公募状況からの分析

「こうべ市民美術展」は、市民の日頃の美術活動の発表の機会と場を提供し、相互研鑽することにより市民文化の向上を図るもので、昭和48年にスタートし、平成10年度で第24回を数える。

応募資格は、神戸市及び周辺に在住・在勤・在学の16歳以上の方で、部門は「日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真・デザイン」の7部門。

下記の出品者数・出品点数等の公募状況の推移を見ると、平成8年度の震災による落ち込み状況を脱してその後回復軌道を辿っている様子が現れている。(震災前の96%の回復率)

神戸市人口に占める出品者数の割合を見ても、震災前の平成5年度は「市民2,070人に一人の割合」であるのに対し、平成10年度は「2,110人に一人の割合」とほぼ同じ比率を占めてきており、震災からの立ち直り傾向を示しているものと思われる。

また、下記の兵庫県立近代美術館・県展出品点数の推移を見ると、「一人当たりの応募可能出品点数の変更」という要素を同レベルに換算推計は数値の比較では、募集対象範囲の問題や推計数値という点はもちろんあるが、震災前を上回る数値となってきた。

また、平成10年度の公募では、総出品点数中に占める神戸地区の出品割合が34%と、兵庫県総人口に占める神戸市総人口の割合27%を越える応募状況となっていることを見ても、活動が停滞していないことが現れているものと思われる。

このように美術創作活動については、アトリエやギャラリー・区民センターなどの物的施設の被災によって創作の場が失われたことなどが大きく影響していたが、物的施設の修復・再建等の進行とともに、ソフト面の創作活動も回復してきていると言えるのではないのでしょうか。

#### <こうべ市民美術展公募・出品者数>

分野別	平成5年度	平成8年度	平成10年度
日本画	68人	82人	44人
洋画	295	207	280
彫塑	8	8	18
工芸	70	56	74
書	64	38	85
写真	188	156	160
その他	37	19	37
①合計	730人	546人	698人

#### <こうべ市民美術展公募・出品点数>

平成5年度	平成8年度	平成10年度
80点	70点	52点
435	293	375
9	10	20
93	74	95
64	43	92
281	241	233
40	22	42
③1,002点	753点	909点

神戸市人口に 占める出品者 の割合	1 / 2,070人	1 / 2,600人	1 / 2,110人	一人当たり 出品割合 (◎/○)			
					1.37点	1.38点	1.30点

<兵庫県立近代美術館公募・県展・出品点数>

分野別	平成5年度	平成8年度	平成10年度
日本画	95点	59点	76点
洋画	342	161	241
彫塑	19	15	21
工芸	74	47	73
書	118	87	106
写真	240	159	248
デザイン	54	58	51
合計	942点	586点	816点

\* 平成5年 → 平成8年度で出品点数が大きく落ち込んでいるのは、平成7年度に一人2点出品可から一人1点出品に変更されたため。



こうべ市民美術展一人 当たり出品割合から平 成5年度数値を推計	推計 688点	586点	816点
---------------------------------------	------------	------	------



(平成10年度データ) ----- 但し、他の年度の数値はなし

人口は平成10年  
10月1日現在

兵庫県総人口に占める 神戸市総人口の割合	$\frac{1,475,342}{5,470,169} = 27\%$
総出品点数に占める神 戸地区の出品点数割合	$\frac{278}{816} = 34\%$

## ②こうべ市民文芸の公募からの分析

「こうべ市民文芸」は、日頃趣味で文芸作品の創作活動をしている市民に、広く発表の機会と場を提供することにより市民文化の振興を図るもので、昭和48年にスタートし、平成10年度で第26回を数える。

応募資格は、神戸市及びその周辺に在住・在勤・在学されている満16歳以上の方が

対象で、募集部門は「詩・短歌・俳句・川柳・短編またはエッセイ」の5部門。

下記の応募者数・応募点数等の公募状況の推移を見ると、いずれも震災前の数値を上回る出品状況となっている。

これは、市民が震災体験を踏まえ、つらかった気持ち、思わぬ優しさに触れて嬉しかった気持ちや震災を通しての思いや体験を作品に込めて色々な方々に発信し共有していただくということで、「いのち、家族、仲間、社会、自然、ボランティア、怒り、悲しみ、感謝、喜び、涙……」などをそれぞれテーマに取り上げて多数応募されたことによるものと思われる。

また、こうした創作活動をすることによって心の痛みを和らげ、元気を呼び戻し、自らを励ますことにも繋がったのではないかとと思われる。

<こうべ市民文芸公募・応募者数>

分野別	平成5年度	平成8年度	平成10年度
詩	63人	83人	63人
短歌	186	158	232
俳句	325	420	368
川柳	175	261	249
エッセイ短編	76	116	76
①合計	825人	1,038人	988人

<こうべ市民文芸公募・応募点数>

平成5年度	平成8年度	平成10年度
96点	1,222点	94点
813	684	853
1,530	2,000	1,711
811	1,239	1,172
76	116	76
②3,326点	4,161点	3,906点

一人当たり出品割合 (②/①)	4.03点	4.01点	3.95点
--------------------	-------	-------	-------

震災後のこうした公募状況について断定することはできないが、平成8年度当時の俳句選者であった永岡うろお先生が総評で「単に数の多いを喜ぶのではなく、これを市民一人ひとりが、ややゆとりを戻した証と見て嬉しいのである。(略)、今回の作に、震禍よりの再生の微光が読み取れることが嬉しいのである」と述べられており、当時の飛躍的な出品数の増加についてのコメントが、当時の状況を的確に表しているのかも知れません。

このように文芸創作活動については、震災により創作活動が一時的に中断したことはあったかもしれないが停滞することなく、むしろその持つ意義が見直されて、震災体験を表現し広く知っていただくという市民の主体的な取り組みの広がりに繋がったのではないかと思われる。

### ③神戸市及び神戸市民文化振興財団への文化行事主催者団体からの後援申請等の状況

文化行事主催団体との連携の状況を見ると、神戸市関係のデータでは平成10年度の数値では震災前の96%となっているが、神戸市への後援申請の場合には市内団体だけでなく全国レベルの団体からの後援申請も多く含まれていることなどが多少影響しているのではないかと思われる。

当財団への後援申請は、主に市内の文化行事主催者団体からのものが中心で地域密着型となっていることから、市内の文化活動団体の動向が比較的反映されやすい。

平成10年度の数値では上記の表のとおり、震災前の状況に回復してきていることが示されている。これは市内の文化活動団体等の活動が盛んになってきている明るい兆しが現れているものと思われる。

#### <神戸市民文化振興財団関係> …… 地域密着型の申請が多い

分 類	共催した行事	協賛した行事	後援した行事	合 計
平成5年度	26件	—	198件	224件
平成8年度	7	2件	175	184
平成10年度	13	1	216	230

#### <神戸市関係> …… 財団に比して全国レベルの団体からの申請が多いと考えられる。

平成5年度	— 件	— 件	331件	331件
平成8年度	—	—	303	303
平成10年度	—	—	318	318

④神戸市内で行われた音楽関係の興行数の推移（日本音楽著作権協会神戸支部調査による）

下記の表に見られるように市民の芸術鑑賞機会や文化活動の状況を現すものと思われる「神戸市内の音楽関係の興行数」は、震災で打撃を受けた文化施設の復旧・再建等の進捗状況に合わせて、また各文化活動団体・文化関係者・市民の努力や頑張りがあり、鑑賞機会や文化活動の発表機会が順次回復してきている様子がうかがえる。

なお、平成5年度データが震災被害のため事務所移転による資料散逸で不明となっているが、聴き取り調査では、震災後震災復興チャリティコンサートなどが継続的に開催されるなど、感覚的には震災前より事業が活発に実施されているのではないかとのコメントがあった。

種 類 別	平成5年度	平成7年度	平成8年度	平成10年度
音楽関係興行（プロ）	件	33件	97件	68件
一般的な演奏会(アマ)	不	412	583	752
ミュージカル・舞踏会	明	33	104	83
芝居		56	130	111
合 計	—	534	914	1,014



### (3) 文化施設等における市民文化活動等の状況調査

#### ① 区民センター等公共的文化施設における各種定例講座の開講状況

市民が音楽や絵画、工芸等の文化教室講座や、料理・洋裁等の生活文化講座等の各種文化活動に参加する機会と場を提供する区民センター等公共的文化施設における定例講座の開講状況については、下記表のとおりとなっている。開講数は震災前を上回る件数となっているが、受講者数は東灘・須磨区民センターが震災による避難所開設や建物修復等のため休講となっていたことなどの影響を引きずっていたためか、震災前の93%の回復率となっている。

但し、特別の要因のあった東灘・須磨区民センターを除く合計の比較では、下記資料のとおりほぼ震災前の状態に戻っていることがわかる。

#### < 区民センター等定例講座開講数の推移 >

施設名	平成5年度	平成8年度	平成10年度
東灘区民センター	98	51	101
六甲道勤労市民センター	111	91	116
葦合文化センター	104	124	133
生田文化会館	130	152	142
兵庫勤労市民センター	116	83	113
北区民センター	110	107	114
新長田勤労市民センター	110	123	139
須磨区民センター	114	35	101
北須磨文化センター	131	118	128
垂水勤労市民センター	117	111	116
西区民センター	111	118	126
合計	1,252件	1,113件	1,329件

#### < 区民センター等定例講座受講者数の推移 >

施設名	平成5年度	平成8年度	平成10年度
東灘区民センター	2,438	993	1,751
六甲道勤労市民センター	3,569	2,685	3,491
葦合文化センター	2,707	2,837	2,719
生田文化会館	3,490	3,407	3,289
兵庫勤労市民センター	3,484	2,077	2,817
北区民センター	2,782	2,835	2,868
新長田勤労市民センター	3,075	3,163	4,310
須磨区民センター	3,017	748	1,926
北須磨文化センター	3,795	3,265	3,061
垂水勤労市民センター	3,773	3,253	3,440
西区民センター	2,960	3,018	3,073
合計	35,090人	28,281人	32,745人

\* なお、平成8年度は震災による避難所開設や建物修復等のため、須磨区民センターは秋季講座のみ開催、東灘区民センターは春季講座のみ開催の数値となっている。



東灘・須磨区民センターを除く合計	1,040件	1,027件	1,127件
------------------	--------	--------	--------

東灘・須磨区民センターを除く合計	29,635人	26,540人	29,068人
------------------	---------	---------	---------

②区民センター等公共的文化施設における大ホールの利用状況

各地域における市民の文化活動の身近な発表の場として活用されている公共的文化施設である区民センター等における大ホールの利用状況については、下記の表のとおりとなっている。

利用件数・利用者数とも平成10年度の数値は震災前をはるかに上回る数値となっているが、これは文化施設の新設等による要因もあるため、震災前の平成5年度には開設していなかった北区民ホール（H6.4.25 オープン）を除く比較を行ってみたが、下記資料のとおりいずれも同様に震災前の数値を上回っており、震災による活動の停滞等を引きずっているというような様子はみられなかった。

<区民センター等大ホール利用件数の推移>

<区民センター等大ホール利用者数の推移>

施設名	平成5年度	平成8年度	平成10年度
東灘区民センター	4 4 9	2 8 5	3 8 6
東灘文化センタ(小ホール)	6 5 6	4 1 5	6 2 8
六甲道勤労市民センター	4 2 9	4 1 8	4 3 4
葦合文化センター	4 6 6	4 4 6	4 2 9
勤労会館	6 0 1	5 2 5	5 3 7
生田文化会館	5 1 3	3 8 2	3 7 4
産業振興センター	1 2 9	2 6 3	2 3 7
兵庫勤労市民センター	—	—	—
北区民センター	—	2 5 5	2 6 2
新長田勤労市民センター	2 5 9	—	2 8 2
須磨区民センター	4 4 2	2 6 8	3 1 5
北須磨文化センター	—	—	—
垂水勤労市民センター	1 7 4	1 9 9	4 8 7
西区民センター	2 8 2	3 1 8	3 0 8
合 計	4, 400件	3, 774件	4, 679件

施設名	平成5年度	平成8年度	平成10年度
東灘区民センター	80, 961	72, 622	144, 367
東灘文化センタ(小ホール)	12, 780	12, 423	13, 823
六甲道勤労市民センター	81, 899	72, 936	71, 257
葦合文化センター	27, 812	29, 240	24, 040
勤労会館	176, 329	106, 324	117, 314
生田文化会館	41, 806	27, 373	24, 914
産業振興センター	79, 400	173, 580	156, 420
兵庫勤労市民センター	—	—	—
北区民センター	—	71, 615	68, 800
新長田勤労市民センター	43, 519	—	74, 199
須磨区民センター	38, 903	16, 657	27, 329
北須磨文化センター	—	—	—
垂水勤労市民センター	99, 903	134, 365	148, 589
西区民センター	46, 197	66, 945	64, 406
合 計	729, 509人	784, 090人	935, 458人

\* なお、北区民センターは平成6年4月オープンのため、平成5年度データには計上されていない。

\* \* 産業振興センターについては、利用件数統計がないため、利用日数による数字となっている。



北区民センターを除く 合計	4,400件	3,519件	4,417件
------------------	--------	--------	--------

北区民センターを除く 合計	729,509人	712,475人	866,658人
------------------	----------	----------	----------

### ③区民センター等公共的文化施設における特目室の利用状況

区民センター等には、音楽室や、陶芸室・美術室・料理教室・視聴覚室等を備えており、各地域における市民の各種文化活動を行う身近な場として利用されているが、その利用状況については、下記の表のとおりとなっている。

利用件数については、平成10年度の数値はほぼ震災前の状態に戻ってきていることが現れている。

一方、利用者数は平成10年度の数値は震災前の90%と▲10%となっている。

これは前述の震災による避難所開設や建物の修復等のため運営がイレギュラーになっていた東灘・須磨区民センターの数値の落ち込みが大きいことも影響しているものと思われる。

これら特別の要因を除く比較では、震災前の98%の回復率となっている。

#### <区民センター等特目室利用件数の推移>

施設名	平成5年度	平成8年度	平成10年度
東灘区民センター	2,795	1,256	2,374
東灘文化センタ(小ホール)	60	173	25
六甲道勤労市民センター	1,942	1,743	1,978
葦合文化センター	2,614	2,427	2,663
勤労会館	829	704	783
生田文化会館	3,529	3,101	3,102
兵庫勤労市民センター	1,166	1,273	1,146
北区民センター	437	736	705
新長田勤労市民センター	1,504	1,335	1,957
須磨区民センター	2,766	666	2,039
北須磨文化センター	1,809	1,709	1,612
垂水勤労市民センター	980	1,139	1,140
西区民センター	2,742	3,324	3,305
合計	23,173	19,586	22,829

#### <区民センター等特目室利用者数の推移>

施設名	平成5年度	平成8年度	平成10年度
東灘区民センター	47,952	15,347	30,338
東灘文化センタ(小ホール)	1,146	3,273	348
六甲道勤労市民センター	75,233	52,660	63,989
葦合文化センター	33,426	30,367	30,569
勤労会館	24,205	18,002	26,899
生田文化会館	51,233	40,832	37,910
兵庫勤労市民センター	56,564	45,502	49,262
北区民センター	7,528	12,969	10,898
新長田勤労市民センター	51,156	62,513	59,289
須磨区民センター	58,965	10,154	31,760
北須磨文化センター	40,323	39,443	33,963
垂水勤労市民センター	45,637	53,207	51,350
西区民センター	37,684	48,329	50,332
合計	531,052人	432,598人	476,907人

↓

東灘・須磨区民センターを 除く 合計	17,612	17,664	18,416
-----------------------	--------	--------	--------

↓

東灘・須磨区民センターを 除く 合計	424,135人	407,097人	414,809人
-----------------------	----------	----------	----------

#### ④神戸文化ホールのホールの利用状況

神戸市の文化活動の拠点施設である神戸文化ホールの利用状況であるが、利用件数では平成10年度のホール関係の数値で震災前の90.4%となっている。

内訳を見れば特に中ホール・シーガルホールの減少が大ホールに比べて大きい。

これは恐らく神戸アートビレッジセンターや神戸新聞松方ホール、新長田ピフレホール、舞子ピラあじさいホールなど文化施設が各地域に新設されてきたところから地域に近接する場所での行事開催にシフトした所も出てきたことも影響しているのかと思われる。

利用者数では平成10年度のホール関係の全体数値は震災前とほぼ同数になっている。大ホールの堅調が全体の引き上げを図っている。

##### <神戸文化ホールのホール・練習場の利用件数の推移>

区 分	平成5年度	平成8年度	平成10年度
大ホール	283	280	276
中ホール	287	268	248
シーガルホール	219	227	189
小 計	789	775	713

##### <神戸文化ホールのホール・練習場の利用者数の推移>

区 分	平成5年度	平成8年度	平成10年度
大ホール	364,171	393,700	401,932
中ホール	178,382	144,756	144,512
シーガルホール	56,215	70,900	46,702
小 計	598,768人	609,356人	593,146人

#### ⑤主要博物館・美術館等の入場者数の状況（神戸市統計書より出典）

主要な博物館・美術館等の入場者数については、ルーブル美術館展やオルセー美術館展のような大型の特別企画展が開催された年と、そうでない年とでは大きく数値が異なってくるので、特別展の開催の状況など詳細な中身の分析を行わないと、計数比較がしにくい部分がある。

最近の全国的な傾向としては、知名度の少々高いものでもなかなか入場者数の伸びがアップしにくいと言われている。しかし一方、世界的なメジャーなものは確かな人気があり、そういう意味で観客の本物志向が厳しくなっていると言われている。

そうした状況の中で、平成8年と平成10年の推移を見ると、まちの再建の状況に合わせるように毎年着実に入場者が伸びてきているように思われる。

更に、平成11年度は神戸市立博物館でオルセー美術館展・大英博物館古代エジプト展という大型の特別企画展が展開されており、街の賑わいを創出する明るい話題を提供してくれている。

(単位：千人、\*の年度数値)

施設名	平成5年	平成6年	平成8年	平成9年	平成10年
神戸市立博物館	736 ループ除く 141	151	566 ループ除く 106	181	162
兵庫県立近代美術館	170	133	166	81	435 テート展除く 265
香雪美術館	18	20	12	20	23
白鶴美術館	15	—	9	10	12
神戸市立小磯記念美術館	* 118	* 86	* 49	* 65	* 80
合計	1057	390	802	357	712
(特別要因を除く合計)⇒	462	390	342	357	542

#### ⑥近接他都市の文化関係施設の動きとの比較

都市はそれぞれ特性があり、個々の事情や取り巻く条件も異なるので一概に比較は難しいが、数値の単純比較ということで、神戸市に近接する京都市や大阪市の市会図書館や行政資料センター等で閲覧可能な資料を参考にして各市の文化関係施設の利用状況の推移をみると、バブルの崩壊や経済不況の影響などを受けたためか、平成8年度又は9年度頃から各市の文化関係施設の利用件数や入場者数が伸び悩み傾向・減少傾向を示してきている。

(別表資料編5の「近接他都市の文化関係施設の動き」を参照)

もちろん民間の文化施設の状況等も含めすべてを網羅しているものではないので、断定はできないが、神戸市の場合は全体的に震災前の状況への回復の軌道を進んでいるところからすると、各文化施設の修復・再建の進行と、文化関係者・文化活動団体・市民が震災からの立ち直りに向けて一丸となって前向きに活動努力をしているそのような頑張りの成果が着実に実ってきており、かなり健闘していると言えるのではないだろうか。

⑦民間の生活文化関連施設の状況 …………… (いずれもNTT神戸版タウンページより抽出出典)

NTT発行の神戸版タウンページから生活文化に関連するものを数種類抽出して比較を試みた。(H4.7.1、H8.7.1、H10.7.8 調査掲載分で比較)

市民の余暇活動の領域のものも含んでいるので、中には直接芸術文化活動と結びつかないと考えられる項目もあるかもしれないが、そうした動きも社会の動きとして参考に取り上げてみた。

<民間カルチャーセンター数の推移>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	4	5	6
灘区	1	3	3
中央区	6	7	10
兵庫区	0	0	0
北区	1	2	2
長田区	0	2	2
須磨区	1	2	2
垂水区	2	4	7
西区	1	2	5
合計	16	27	37

労働時間の短縮、自由時間の増大、趣味の多種・多様化、生活の質の向上、個性の発揮、高齢化社会を迎える中での生涯学習の取り組みの進行、生きがいづくりなどの様々な要素により、文化の果たす役割が大きくなっており、その中で生活文化を楽しむ区民センターやカルチャーセンターの利用需要が増大してきており、こうした背景に沿って、左表のとおり民間カルチャーセンター数が年々増加しており、震災の影響を余り感じさせない数値の推移をみせている。

むしろ震災により生きがいや心の拠り所、人と人のつながり、共に作り学び合う交流や共生を深めること、感動などといったものを文化活動に求めているという風には言えないだろうか。

<民間ダンス教室数(エアロビクスを含む)の推移> <バレエ教室数の推移>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	10	8	9
灘区	2	2	2
中央区	12	15	20
兵庫区	2	2	2
北区	2	1	2
長田区	1	1	1
須磨区	2	3	3
垂水区	2	3	2
西区	0	0	0
合計	33	35	41

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	2	2	3
灘区	3	3	3
中央区	5	7	10
兵庫区	1	1	1
北区	1	1	1
長田区	3	2	2
須磨区	3	1	1
垂水区	2	3	3
西区	0	0	1
合計	20	20	25

上記民間ダンス教室及びバレエ教室数の推移を見ると、いずれも漸増傾向にあり、震災による影響を余り感じさせない動きとなっている。

これはダンスをテーマにした映画のヒットやテレビの娯楽番組での取り上げなど好影響をもたらす外部要因などが寄与するところも大きいのではないかとと思われる。

<音楽教室等の推移(一般+歌謡+ピアノ+バイオリン+ギター)>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	20	20	16
灘区	10	11	15
中央区	23	24	25
兵庫区	11	13	9
北区	9	12	13
長田区	9	6	7
須磨区	15	14	11
垂水区	10	14	12
西区	3	10	10
合計	110	124	118

音楽教室や、ライブハウス、カラオケ・ジュークボックス数等の推移を見ると、数値の多少の凸凹はあるが、いずれも震災前の数値を上回っている。

市民の余暇活動の選択肢の一つとして定着したカラオケや歌唱などは、若者から高齢者まで全世代に共通する楽しみとなっていることなどから堅調な動きを示しているのではないかとと思われる。

<ライブハウス等の推移>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	1	1	2
灘区	0	0	0
中央区	13	19	22
兵庫区	0	0	1
北区	0	0	0
長田区	0	0	0
須磨区	0	0	0
垂水区	0	1	2
西区	1	0	0
合計	15	21	27

<カラオケ・ジュークボックス等の推移>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	14	19	17
灘区	13	19	23
中央区	58	72	78
兵庫区	12	27	25
北区	16	12	12
長田区	13	17	15
須磨区	15	14	15
垂水区	9	11	10
西区	15	17	17
合計	165	208	212

CD販売店やレンタルビデオ・CD店数は、次頁表のとおり平成10年度の数値は震災前の数値には戻っていないが、平成8年度の数値よりは伸びてきている。

これは、販売店舗やレンタル店舗の大型化により零細店舗の経営が難しくなっていることや、大型不況による消費の低迷などの影響もあるのかと思われる。

もう少し状況を見極める必要がある。

<CD販売店等の推移>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	5	4	5
灘区	7	6	5
中央区	33	26	33
兵庫区	4	3	3
北区	6	5	5
長田区	6	3	4
須磨区	4	5	4
垂水区	6	5	4
西区	3	5	5
合計	74	62	68

<レンタルビデオ・CD店数の推移>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	16	9	11
灘区	10	9	11
中央区	28	21	19
兵庫区	13	8	13
北区	11	8	8
長田区	13	6	7
須磨区	11	11	11
垂水区	18	16	16
西区	8	8	11
合計	128	96	107

<映画館数の推移>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	1	0	1
灘区	3	2	2
中央区	14	11	11
兵庫区	7	3	3
北区	0	0	0
長田区	0	0	0
須磨区	2	2	2
垂水区	0	0	0
西区	2	2	2
合計	29	20	21

映画館数については、平成10年度の数値を見ると震災前より大幅に減少しているが、以前の映画館は一館1スクリーン（映画上映室）の形態が中心であったが、最近建設される映画館は1館の中に数室のスクリーン（映画上映室）がある形態となっており、例えば東灘区の六甲アイランドにオープンした「ムーヴィックス六甲」では一館に7本のスクリーンが設置されているので、単純な映画館数の数値では比較しにくい要素がある。

従って、感覚的には震災前と遜色ないのではないかと思われる。



画廊・貸しギャラリー数については、次頁表のとおりとなっている。

画廊数については、震災前に比べ大幅に減少しているが、震災でコレクターが購入意欲をなくしたことが響いて画廊運営が成り立たなくなったということもあろうし、またバブル崩壊による全国的な不況の波をもろに被っているとも言えるのではないか。

一方、貸しギャラリー数は震災前より大幅に伸びてきている。

これは震災により倒壊したビルの再建が進行してビルの一角に貸しギャラリーを併設するなどの動きによる影響もあるのかと思われる。

<画廊数の推移>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	13	12	15
灘区	2	4	4
中央区	63	46	45
兵庫区	2	0	0
北区	1	4	6
長田区	2	2	1
須磨区	5	6	4
垂水区	4	6	4
西区	1	0	0
合計	93	80	79

<貸しギャラリー>

区名	平成4年度	平成8年度	平成10年度
東灘区	3	4	4
灘区	0	1	2
中央区	6	7	7
兵庫区	0	0	0
北区	0	0	0
長田区	0	0	0
須磨区	1	1	2
垂水区	1	3	1
西区	0	1	1
合計	11	17	17

以上のとおり生活文化に関連するものを数種類抽出して見てきたが、時代の変遷の中で流行りすたりにより影響を受けている部門もあつたり、またバブル崩壊による不況の波を被っていると考えられるものもあつたりと、これらの数値の増減が直接震災による影響とは結びつけにくい事例も見受けられた。

いずれにしろ詳細の分析は、それぞれの営業分野の専門的機関による分析によらざるを得ないものと思われる。

### 3 おわりに — 全体的な状況を通した感想 —

以上様々な面から震災後の市民の文化活動についてみてきたが、各種文化施設の修復・再建等の進行とともに、また様々な人々の努力によってソフト面の文化活動も順次回復してきている様子が見えてきた。

しかし、もちろん文化というものは計数的な尺度ではなかなか計り知れないものがあるとされているし、また文化は人間の生きざま・気持ちや心に関わる問題でもあり、文化は市民が創り出すものと言われている。

そういう意味で、今回文化活動団体調査のアンケートに各団体から様々なご意見をご記入いただき、「震災から復興へ立ち向かう姿や気持ち」がまざまざと現されており、後世に引き継ぐ貴重な資料となるものと確信します。

最後に文化活動団体調査のアンケート調査の意見欄や各分野の方々のお話の中から「この5年間で振り返っての文化活動についてのコメント」を下記のとおり少し紹介してからまとめたい。

- ・ 音楽関係の団体の意見の中では、「我々の基本的な姿勢として、一つはお客様の期待や要求に応えられるように絶えず積極的に取り組んでゆくということと、またもう一つはそのために演奏水準の維持・向上を努めるという2本柱で取り組んでおり、震災で一時的に活動が中断したことはあったかもしれないが、震災の影響でその後文化活動が低迷したとか、文化行事が開催できなくなってしまったというような状況はないし、そういう感覚なり意識はない。

ただ、昨今の経済不況や世紀末を迎えての世相や社会状況に多少影響を受けるということはあるかもしれないが、皆んな前向きな気持ちで頑張っている。」という意見があった。

- ・ マスコミ関係の意見の中では、「震災後各芸術文化団体ができるだけ早く震災のショックから立ち直ろうと積極的に文化行事開催の取り組みを行ってきたが、ここへ来て昨今の経済不況や世相の状況、企業の業績停滞による協賛状況の低迷など取り巻く状況が厳しい環境になってきているところから、今後芸術文化団体の頑張りが続けられるか正念場に来ているのではないかという声もある。

文化は経済に左右されるのはおかしいが、観客の選別する姿勢も本物思考になってきているので、主催する側もより中身をよく吟味して開催していく必要があるのではないか」という意見があった。

- ・ 舞踊関係の団体の意見の中では、「震災を経験し、『生きている喜びを、生かされている尊さを！』そして多くの死者に対して私たちは何ができるのか、つらく困難の連続の中で、倒れる寸前までがんばりたい、共に生きていることを共有したい！と願い、震災後これまで公演活動、指導活動を続けてきました。震災直後は半減しましたが、多くの方々の支援支持によって、震災前より活気を持つまでになりました。

地元兵庫、神戸を中心に公演活動を意欲的に取り組んでいます。そして夢と感動を市民、県民の皆さんにお贈りします」という意見があった。

## <まとめ>

阪神・淡路大震災で失ったものは大変大きいものがあったが、文化関係者・文化活動団体・市民を初めとした様々な人々の大変な努力で復興へと立ち上がり、「神戸の文化の灯」を絶やさないために様々な活動が展開され、その中から震災を契機として新たな試みや新しい息吹・芽生えのようなものが前述のように沢山現れ、これらが「神戸文化の新しい創造に繋がる明るい光」となってきたように思われる。

また芸術・文化は傷ついた心を癒し、生きる勇気や希望を与え、また市民も文化活動家も共に元気づけられ、「心のオアシス」とも言うべき大きな心の拠り所となったところである。

大震災の発生により公の機関が災害救助・災害復旧業務、更には市民生活の安定と都市機能の回復に向けて取り組むべき事業や課題が山積する中、あらゆる面をすべて公の力のみで担っていくことは難しい状況にあった。

そのような中であって、市民一人ひとりが復興の主役であるとの認識に立って地元文化関係者や文化活動団体が自発的・自立的に被災した人々の心のケアや、地域や社会への貢献活動に積極的に取り組んでこられた。

これまでも述べてきたように、こうした芸術文化活動が、「市民の心の復興」や「まちの復興」に大きな役割を果たしてきました。

芸術文化活動に携わる人々にとっても、こうした活動を通して社会や地域のために貢献できることに大きな喜びを感じ、また様々な人々や色々な地域との絆や連帯、交流が生まれ、こうした中から新しい文化の芽が生まれ、活動の輪の広がりへと繋がってきていることは、「神戸市民の大きな財産」であると言える。

こうして生まれた芸術文化活動が大きなエネルギーとなって、新しい神戸の文化の創造やまちの発展に必ずや繋がってゆくものと思います。

また、こうした文化が果たした役割や素晴らしさに触れ、市民自らも生きがいや心の拠り所、人と人のつながり、共に作り学び合う交流や共生を深めるといったことを文化活動・創作活動に求め、こうした活動を通して震災体験を表現し広く知っていただく、また共有していただくという市民の主体的な取り組みの広がりへと繋がってきていることは、これからの21世紀の地域における市民文化活動のあり方を模索する上で、大きな意味があることと考えます。

最後になりましたが、昨今不況の長期化によって経済環境は確かに厳しいものがありますが、この震災をみんなで力を合わせて乗り越えてきた市民文化活動の力や情熱が更に発揮されていけば、きっと震災を機に新たに生まれた文化の芽や輪を更に大きく発展させていくことができ、神戸の新しい芸術文化の創造に繋がるとともに、神戸のまちの真の復興に繋がっていくものと考えます。

(財) 神戸市民文化振興財団文化事業部

<宮道成彦(H11.10.1 榎本 黠)・小田正明・村田年隆執筆>

平成11年12月 1日最終まとめ

## 資 料 編

- 1 市内の主な各種文化施設の被害状況・再開状況 ..... 3 6
- 2 神戸市民文化振興財団が係わった被災者慰問事業等の実施状況 ..... 3 9
- 3 平成7年一年間に市内で行われた主な被災者慰問事業等の開催状況 ..... 4 2
- 4 「ふりかえる あれから1年PART I・II」 ..... 5 4  
(「KOBE C情報」平成8年1月号・2月号より)
- 5 近接他都市の文化関係施設の動き ..... 5 7
- 6 「神戸の市民文化活動の復興状況」特集記事関係 ..... 6 2  
(「KOBE C情報」平成12年2月号より)

# 1 市内の主な各種文化施設の被害状況・再開状況

※ 神戸市発行の「阪神・淡路大震災 — 神戸市の記録1995年 —」より出典の上、加筆

## 1 神戸市内のホール（音楽や演劇の公演等に利用される 200人規模以上の施設）の主な被害状況

施設名	規模	被害状況	再開状況
(東灘区) 東灘区民センター大ホール	650人	天井落下、70-リグ波打、反響板損壊、水損	平成8年4月1日再開 平成9年1～9月再改修
東灘区民センター小ホール KFMホール・イオ	250人 744人	外壁南東部せん断亀裂 外壁少々損壊	平成9年10月1日再開 平成8年7月 平成7年4月
(灘区) 六甲道勤労市民センターホール 灘区民ホール	200人 500人	鉄筋露出、ビル入館禁止 南西角柱4本破損、天井全落下、反響板大破	平成8年3月1日 平成8年4月26日
(中央区) 葺合文化センター大ホール 生田文化会館大ホール 神戸市教育会館 勤労会館大ホール 神戸文化ホール大ホール 神戸文化ホール中ホール 神戸文化ホール小ホール 神戸国際会議場メインホール 森のホール こべっこホール 産業振興センターホール 兵庫県私学会館大ホール 兵庫県農業会館11Fホール 神商ホール 兵庫県中央労働センター大ホール 兵庫県民小劇場 兵庫県民会館9F大ホール かんしんホール 風月堂ホール 田崎ホール ジーベックホール ゴーフルポートピア'88 せいでんラビングホール 湊川神社神能殿 大月真珠パルレホール 新神戸オリエンタル劇場 西山記念会館ホール 神戸朝日ホール さんちかホール 神戸国際会館	320人 324人 230人 500人 2073人 910人 514人 692人 150人 300人 397人 300人 500人 500人 320人 410人 360人 200人 200人 233人 300人 271人 180人 377人 250人 639人 718人 509人 2200人	天井壁剝離、控室倉庫天井落下 蛍光灯、飾り枠破損 映写機とアンプ 損傷 (ホール → 下水道局事務所に) 南側外階段基部鉄筋露出、西面外壁崩落 照明器具一部落下、空調吹出口各所損壊等 舞台機構操作盤損壊 エレベーター不可、映写機倒壊 照明不可、音響板レールゆがみ、スピーカー転倒 瓦破損程度 天井壁落下、エレベーター不可、階段ひずみ ステージ天井コンクリート片落下 舞台ハゴロガラス20枚割れ、耐震内壁ヒビ程度 照明落下、天井一部落下、音響室ヒビ割れ 音響・照明は被害なし、吊物未調査 煙突落下暖房不可 (日赤救護班の基地) 吊物点検をするのみ (自衛隊常駐) 会館全体に被害 3月中に修復工事 被害特になし (ホールが地下書庫の物品置場に) 被害特になし 交通アクセスのみ スプリンクラーの水損で板が反っている 特に被害なし 天井裏機材落下、危険立入禁止 建物は被害なし、舞台の壁板はずれ・歪み 特に被害なし 特に被害なし 被害軽微修理中 (本社機能復旧班常駐) 水損 被害軽微 取り壊し→建替再建 (こくさいホール2022人)	平成7年5月23日 平成8年4月1日 平成8年4月1日 平成8年4月2日 平成7年9月1日 平成7年9月1日 平成7年4月1日 平成7年6月 平成7年3月16日 平成8年4月23日 平成7年3月15日 平成7年2月21日 平成7年12月 平成7年9月1日 平成7年4月1日 平成7年4月1日 平成7年4月1日 平成7年4月1日 平成7年6月1日 平成7年3月 平成7年6月 平成7年3月12日 平成7年5月14日 平成7年6月10日 平成7年2月11日 平成7年4月11日 平成7年4月1日 平成9年7月24日 平成11年5月28日
(北区) 北区民ホール (すずらんホール) シルバーカレッジホール	504人 500人	反響板損傷 被害特になし	平成7年4月1日 平成7年5月1日
(長田区) 新長田勤労市民センターホール	400人	外壁東面、西面一部損傷	平成9年5月1日

施設名	規模	被害状況	再開状況
(須磨区) 須磨区民センター大ホール	450人	外壁一部亀裂、玄関損壊、入口付近陥没	平成8年6月
(垂水区) 垂水勤労市民センター大ホール	572人	客席照明23カ所点灯せず。	平成7年5月2日
(西区) 西区民センター大ホール	500人	入口側防火扉一部破損、天井照明一部落下	平成7年4月1日

## 2 神戸市内のギャラリー（美術展などによく利用されるやや規模の大きい施設）の主な被害状況

施設名	被害状況	再開状況
(灘区) 王子市民ギャラリー	屋根瓦損壊	平成7年10月17日
(中央区) 県民アートギャラリー 神戸北野 White House アートホール神戸 サンパル市民ギャラリー ギャラリーさんちか 市役所市民ギャラリー 海文堂ギャラリー デュオギャラリー まちづくり会館ギャラリー	壁等に損傷 煙突、柱、テラス等破損、壁ひび等 →経営主体が変更し、神戸北野美術館としてH8.11.1開館 水損 壁にひび 特になし 特になし 壁にひび 特になし 特になし（避難所）	平成7年4月1日  平成7年4月 平成7年3月3日  平成7年3月1日 平成7年3月10日 平成7年7月15日
(長田区) 神戸パートふれあいギャラリー	取り壊し	取り壊し

## 3 神戸市内の主な博物館・美術館の被害状況

施設名	主な被害状況	再開状況
(東灘区) 小磯記念美術館 香雪美術館 世良美術館 白鶴美術館	アトリエ大屋根瓦のゆるみ・剝離、玄関前等周辺部陥没 雨漏り、新館・本館接合部の破損、給排水設備破損 本館は壁が落ちた程度、和室・洋室倒壊、展示品被害は20~30点 最上階の天井のひび割れ 本館の照明器具落下、展示室シャンデリア破損	平成7年10月3日 平成7年9月15日 平成7年4月 平成7年10月17日
(灘区) 県立近代美術館	本館：外壁ガラス前面破損、収蔵庫・版画ケース破損、 2階の東側が大きく南に横ズレし落下の恐れあり 1階彫刻室は鉄骨柱が南に傾く 西館：接合部分や展示室の天井に若干の被害、展示作品 落下転倒	本館 平成7年11月11日 西館 平成7年8月15日 東館 平成7年8月15日

施設名	主な被害状況	再開状況
(中央区) 市立博物館  青少年科学館  神戸阪急ミュージアム うろこ美術館 兵庫県陶芸館	旧館と新館の地下1階の取合部の切断・段差・浸水、玄関回りの階段の沈下、旧館と新館のエキスパンション部の破損、浸水による熱源等の設備不能 プラネタリウムと本館及び本館と新館の接合部の床面陥没・隆起、一部壁の亀裂、建物基礎下地盤沈下、給排水管破損  展示品破損 全壊	平成8年1月17日  平成7年6月18日  平成7年4月26日 平成7年5月1日
(西区) 埋蔵物文化町センター	1階ピロティ段差、壁面亀裂、展示品破損	平成7年4月28日

## 2 神戸市民文化振興財団が係わった被災者慰問事業等の実施状況

(N01)

No.	年月日	出演者	主催	会場	人数
1	1995年2月15日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸文化ホールロビー	150
2	〃 2月18日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	葦合文化センター	200
3	〃 2月23日	自衛隊音楽隊	自衛隊	上筒井小学校	450
4	〃 2月23日	セントルイス交響楽団	セントルイス交響楽団	新神戸リエントナル劇場	700
5	〃 3月6日	自衛隊音楽隊	自衛隊	県立文化体育館	100
6	〃 3月6日	さとう宗幸	神戸新聞社	葦合文化センター	300
7	〃 3月7日	自衛隊音楽隊	自衛隊	雲中小学校	100
8	〃 3月7日	自衛隊音楽隊	自衛隊	しあわせの村	200
9	〃 3月8日	自衛隊音楽隊	自衛隊	王子スポーツセンター	50
10	〃 3月9日	自衛隊音楽隊	自衛隊	北野小学校	100
11	〃 3月10日	自衛隊音楽隊	自衛隊	稗田小学校	100
12	〃 3月11日	自衛隊音楽隊	自衛隊	青陽東養護学校	50
13	〃 3月11日	伊藤勝(ピアノ)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1階	200
14	〃 3月12日	自衛隊音楽隊	自衛隊	上野中学校	200
15	〃 3月12日	岡田征士郎+エコ・エレガソテ(歌)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1階	200
16	〃 3月13日	自衛隊音楽隊	自衛隊	本山第3小学校	200
17	〃 3月14日	自衛隊音楽隊	自衛隊	二宮小学校	100
18	〃 3月17日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸市防災コミュニティセンター	100
19	〃 3月17日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	稗田小学校	200
20	〃 3月19日	宮本慶子、山中祐起子、栗原未知(マリノバ)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1階	200
21	〃 3月22日	小沢征爾・新日本フィルハーモニー	小沢征爾・新日本フィルハーモニー	柳山手女子短大体育館	3,000
22	〃 3月22日	練木繁夫(ピアノ)	神原音楽事務所	吾妻小学校	150
23	〃 3月22日	練木繁夫(ピアノ)	神原音楽事務所	葦合文化センター	100
24	〃 3月25日	水澤節子(歌)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1階	200
25	〃 3月26日	三室堯(歌)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1階	200
26	〃 4月2日	神戸フィルハーモニック	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	500



No.	年 月 日	出 演 者	主 催	会 場	参加費
27	1995 年 4 月 15 日	がんばろう神戸コンサートPART1	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸朝日ホール	500
28	" 4 月 16 日	がんばろう神戸コンサートPART2	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸朝日ホール	500
29	" 4 月 17 日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸ポートピアホテルロビー	350
30	" 4 月 17 日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸ベイシエラトンホテル	200
31	" 4 月 23 日	自衛隊音楽隊	自衛隊	しあわせの村	200
32	" 4 月 23 日	モスクワ・ロクチェフ少年少女合唱団	関西復興行動する市民の会「そして神戸」	スペースシアター他	400
33	" 4 月 25 日	デュオ・ハヤシ	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸朝日ホール	500
34	" 4 月 28 日	ブルストン・シゲルバンド&タンパリンコンサート	旧居留地協議会	さくら銀行前	300
35	" 5 月 2 日	澤 和樹弦楽四重奏団	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸朝日ホール	500
36	" 5 月 13 日	さわやかコンサート	梶川純司 (広島)	葦合文化センター	100
37	" 5 月 14 日	千住真理子ヴァイオリンソライタ	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸朝日ホール	500
38	" 5 月 17 日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸朝日ホール	500
39	" 5 月 24 日	ロンドン交響楽団	ロンドン交響楽団	西山記念会館	700
40	" 5 月 29 日	フォルクローレグループ「ルス・デル・アンデ」	日本ラテンアメリカ文化交流協会アミーゴ本部	神戸朝日ホール	500
41	" 6 月 20 日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸文化ホールロビー	200
42	" 7 月 9 日	リ・アンサンブル	阪神大震災復興演奏家集団	県立兵庫高校	50
43	" 7 月 17 日	リ・アンサンブル	阪神大震災復興演奏家集団	市立湊川中学校	60
44	" 7 月 18 日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	県立兵庫高校	300
45	" 7 月 18 日	丸山久・美しき日本の歌	丸山音楽事務所	市立福住小学校	50
46	" 7 月 19 日	丸山久・美しき日本の歌	丸山音楽事務所	市立青陽東養護学校	50
47	" 7 月 20 日	丸山久・美しき日本の歌	丸山音楽事務所	市立長田公民館	50
48	" 7 月 22 日	リ・アンサンブル	阪神大震災復興演奏家集団	市立駒ヶ林中学校	50
49	" 8 月 12 日	日本をすくえ' 9 5	泉谷基金	メリケンパーク	11,000
50	" 8 月 14 日	中田喜直の宇宙～夏の思い出に	アサクラビルコンサート企画	西山記念会館	700
51	" 8 月 23 日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	兵庫県公館	500
52	" 9 月 30 日	オーケストラ・アジア	オーケストラ・アジア実行委員会	神戸文化ホール	1,000
53	" 10 月 7 日	ストーリーを奏でるピアノコンサート	サークルT. I	産業振興センター	373

No.	年月日	出演者	主催	会場	人数
54	1995年10月24日	日本フィルと関西の仲間たち「港の風に寄せて」	アート・エイド・神戸実行委員会	産業振興センター	311
55	〃 11月1日	童謡・弘田龍太郎の世界	豊田偕子・須藤恵実	北須磨文化センター	250
56	〃 11月3日	童謡・弘田龍太郎の世界	豊田偕子・須藤恵実	しあわせの村	250
57	〃 12月15日	盛 中国ヴァイオリンコンサート	アート・エイド・神戸実行委員会	産業振興センター	325
58	〃 12月16日	盛 中国ヴァイオリンコンサート	アート・エイド・神戸実行委員会	六甲   南ふれあいセンター	90
59	1996年1月31日	ゼロ弾きのゴーシュ	日本フィル他	神戸文化中ホール	800
60	〃 3月21日	左門流桐舞会	左門流桐舞会	大池サンホーム	100
61	〃 3月29日	春よこい・激励コンサート	日本フィル	鹿の子台ふれあいセンター	150
62	〃 4月7日	盛中国ヴァイオリンコンサート	盛中国・瀬田裕子	六甲   南ふれあいセンター	60
63	〃 5月21日	堤・神谷デュオコンサート	アート・エイド・神戸実行委員会	東灘区民センター	650
64	〃 6月14日	あわて暮やぶけ芝居	東京芸術座	神戸文化中ホール	900
65	〃 6月28日	初夏の風・激励コンサート	日本フィル	西神7仮設東ふれあいセンター	100
66	〃 11月22日	弘田龍太郎作品と秋の童謡をうたう	豊田偕子・須藤恵実	特別養護老人ホーム・協同の苑	100
67	〃 11月23日	弘田龍太郎作品と秋の童謡をうたう	豊田偕子・須藤恵実	しあわせの村	250
68	1997年11月22日	「叱られて・浜千鳥」日本の童謡の数々	豊田偕子・須藤恵実	さざんか療護園	100
69	〃 11月23日	「叱られて・浜千鳥」日本の童謡の数々	豊田偕子・須藤恵実	しあわせの村	250
70	1998年11月22日	昔から今、そして未来へ歌い継ぐ名曲	豊田偕子・須藤恵実	子供の家	100
71	〃 11月23日	昔から今、そして未来へ歌い継ぐ名曲	豊田偕子・須藤恵実	しあわせの村	350
72	1999年11月20日	日本の童謡・弘田龍太郎の世界	豊田偕子・須藤恵実	灘区民ホール	400
73	〃 11月21日	日本の童謡・弘田龍太郎の世界	豊田偕子・須藤恵実	しあわせの村	350
[実績：通算73回・参加者 34,069人]					

### 3 平成7年一年間に行われた被災者慰問事業等の開催状況

※ 日刊新聞紙等の記事から拾い出したものであるため、チェック漏れや記載の間違いなどもあると思われるので、すべてを網羅しているものでないことをお断りしておきたい。  
 ※ 文化振興財団が関与したものは、(財)印とゴシック体で表示している

	日時	イベント名・出演者	主催等	会場	参加者数
	2月 1日	大阪フィルハーモニー交響楽団	大阪フィルハーモニー交響楽団	上筒井小学校	
	10日	神戸市混声合唱団	神戸市演奏協会	本山第2小学校 本山南中学校	
	11日~4月26日	「KOBE AID」(贈・録・贈)	新神戸オリエンタル劇場	新神戸オリエンタル劇場	延33,000
	13日	ピッコロ劇団	県立ピッコロ劇団	神戸市諏訪山小学校	
	14日	わらび座公演	コープ神戸	和南小・和南3小・東灘小	
財	15日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸文化ホールロビー	150
	16~21日	野並允温 個展に「震災の中から」を出展		サラテマスク(東灘調ホール)	
	17日~3月16日	延143団体出演	神戸フラワーテント	東遊園地	
財	18日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	葦合文化ホール	200
	18日	「北村英治+船正雄カルテッド」(ジャズ)	北村英治	私学会館	
財	23日	自衛隊音楽隊	自衛隊	上筒井小学校	450
財	23日	セントルイス交響楽団	セントルイス交響楽団	新神戸オリエンタル劇場	700
	25日	明舞女声コーラス		フレンドアトリウムコート	

	3月1日~3日	チャリティー美術展	アート・エイド・神戸新委展	海文堂ギャラリー	
	4日	壁画キャンパソI (湧島克己)	アート・エイド・神戸新委展	元町商店街	
財	6日	自衛隊音楽隊	自衛隊	県立文化体育館	100
財	6日	さとう 宗幸	神戸新聞社	葦合文化センター	300
財	7日	自衛隊音楽隊	自衛隊	雲中小学校	100
財	7日	自衛隊音楽隊	自衛隊	しあわせの村	200
財	8日	自衛隊音楽隊	自衛隊	王子スポーツセンター	50
財	9日	自衛隊音楽隊	自衛隊	北野小学校	100
財	10日	自衛隊音楽隊	自衛隊	稗田小学校	100
	10日	神戸市混声合唱団	神戸市など	新神戸オリエンタル劇場	
	10日	耕ちファミリーバンド(ジャグバンド)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1F	

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
財	3月11日	自衛隊音楽隊	自衛隊	青陽東養護学校	50
財	11日	伊藤 勝 (ピアノ)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1F	200
	11日	映画「渡り川」上映会	県高校生平和ゼミナール	長田工業高校	
	11日	大江 光コンサート	アート・エド・神戸新委組	中町ベルディホール	
	11~26日	片断学&エクスワイアー など(ジャズ)	ワンヴォードKOBE新委組	パティオーム(異人館裏側パートⅡ)	
財	12日	自衛隊音楽隊	自衛隊	上野中学校	200
財	12日	岡田正樹+エコ・エレガント(歌)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1F	200
	12日	「がんばり!WE LOVE KOBE」 協賛イベント ①ライツ室内管弦楽団 ②ミュージカルショー	・神戸市 ・神戸商工会議所	①ホテルオークラ神戸ロビー ②新神戸オリエンタル劇場	
	12日	みゆき ちびっ子大船	神戸風月堂	神戸風月堂 8 8	600
	12日	楊 興新 (胡弓演奏) 灰谷健次郎 (作家)		神楽小学校前広場 葺合文化センター 南京町広場	
財	13日	自衛隊音楽隊	自衛隊	本山第3小学校	200
財	14日	自衛隊音楽隊	自衛隊	二宮小学校	100
	16~20日	森祐理子 (歌手) ほか		水笠公園、鷹取協会他	
財	17日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸防災コミュニティセンター	100
財	17日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	稗田小学校	200
財	19日	鉢子、山中純子、藤本(マリンバ)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1F	200
	19日	レクイエム in こうべ		神戸朝日ホール	
	19日	橋 茂 (オペラ)		兵庫県立神戸1階ロビー	
	19日	3・19 神戸いきいきコンサート	兵庫県被災者連絡会	東遊園地	300
	19日	私立六甲学院中・高部音楽部		六甲小学校の校庭	
	19日	西嶋(テノール)・千賀子(ソプラノ)		長区通JR線下館	
	20日	「ラ・ストラダ」弦楽合奏	神戸市青少年団連合協議会	葺合高校体育館 神戸阪急百貨店	
	21日	関西マンドリン合奏団		ホテル ゴーフルリッツ	
	21日	民衆マダン	在日韓国民連合兵庫本部	若松公園	
	21日	「ファーゴルク」アイルランド音楽グループ		湊川公園	

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
	21・23・27・28日	山下千尋(野77/賛)	ヤマハ音楽振興会	王子スポーツセンター 他	
財	3月22日	小沢征爾・新日本フィルハーモニー	小沢征爾・新日本フィルハーモニー	榊山手女子軟体体育館	3,000
財	22日	練木 繁夫 (ピアノ)	神原音楽事務所	吾妻小学校	150
財	22日	練木 繁夫 (ピアノ)	神原音楽事務所	葦合文化センター	100
	~22日	画家たちのメッセージ (県内の作家が日本画、洋画、彫刻などを出品)		サンパル市民ギャラリー	
	25日	春一番JAZZコンサート -復興へのスウィング-	本山第1小学校自治会 本部	本山第1小学校	
	25日	被災留学生支援のためのチャリティコンサート	流通科学大学吹奏楽団	流通科学大学	
財	25日	水澤 節子 (歌)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1F	200
	26日	赤塚山高校吹奏楽部	赤塚山高校	赤塚山高校2階講堂	
財	26日	三 堯(バリトン) 岡 幸(ピアノ)	阪急百貨店	阪急百貨店神戸店1F	200
財	26日	囲碁・将棋のついで(将棋)	関西学院、日本将棋連盟、神戸新聞社 ほか	葦合文化センター	
	~28日	吉岡 充 (画家)		デュオぎやらりー	
	29日	圓城三花 (フルート) テレマン室内管弦楽団	住友生命保険相互会社	神戸ハーバーランド ニューオータニ	
	29日	西園(テノール)・千賀子(ソプラノ)	神戸音楽倶楽部チャリティコンサート新委	西神戸リエンタルホテル	
	4月 1日	エイプリルフルコンサート 梶正博 他		メリケンパーク	
	1日	藤原 道子 (ソプラノ)		マリーア・プチメゾン	
	1日	兵庫の再生をめざして フェニックス兵庫美術展	兵庫県文化協会	兵庫県民会館	
財	2日	神戸フィルハーモニック	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	500
	2日	がんばろう神戸ファミリーコンサート		神戸市産業振興センター	
財	2日	囲碁・将棋のついで(将棋)	関西学院、日本将棋連盟、神戸新聞社 ほか	葦合文化センター	
	2日	被災留学生支援のためのチャリティコンサート	流通科学大学吹奏楽団	流通科学大学	
	3日~	劇団 NIWATORI		神戸元気食堂仮設ステージ	
	4日~11日	復興に向けてやすらぎ美術館「洋画の名作」展	県立近代美術館	兵庫銀行 板宿店	
	7日	中村 紘子 (ピアノ)	社会福祉法人「さぼうと21」	ホテルオークラ	
財	8日	黒坂 正文 (フォークシンガー)	神戸おやこ劇場協議会	葦合文化センター	
	10日	並木 路子 (歌手)	阪神・淡路大震災復興行事実行委員会	東灘小学校	

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
	4月 13日~20日	復興に向けてやすらぎ美術館「洋画の名作」展	県立近代美術館	兵庫銀行 長田店	
	14日	劇団文化座	神戸労演	神戸シーガルホール	
財	15日	がんばろう神戸コンサート PART1	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	500
	15日	ふたたび羽ばたけ神戸のアーティスト達 1st	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	
	16日	ふたたび羽ばたけ神戸のアーティスト達 2nd	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	
	16日	神戸御影コンサート 大震災を乗り越えて	御愛サウンズ新委員会	世良美術館・御影教会	
財	16日	がんばろう神戸コンサート PART2	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	500
財	17日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸ポートピアホテルロビー	350
	17日	詩集 阪神淡路大震災刊行	アート・エイド・神戸新委員会		1,500
財	18日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸ベイシヤトルホテル	200
	20日~23日	わ・わ・わフェスティバル	神戸をほまの文化師にする会	神戸シーガルホール	
	21日	復興キャンペーンソング「美し都(うまし都)」発売 (主催) WE LOVE KOBE元気復興委員会			
	22日	ハワイアン音楽	関西西宮信用金庫	かんしんホール	
財	23日	自衛隊音楽隊	自衛隊	しあわせの村	200
財	23日	モスクワ・ロクチェワ少年少女合唱団	関西復興へ行動する市民の会「そして神戸」	スペースシアター他	400
	23日	一緒に歌おう!世界の歌		コープ神戸文化センター	
	23日	劇団あぶあぶあ		神戸朝日ホール	
	24日	デュオ・ハヤシ	アート・エイド・神戸新委員会	同和火災フェニックスタワー	
	4月24~5月1日	「創造に向けてのガレキ」展	ガレキプロジェクト100	ギャラリー夢創館	
	4月24~5月1日	復興に向けてやすらぎ美術館「洋画の名作」展	県立近代美術館	兵庫銀行 御影支店	
財	25日	デュオ・ハヤシ	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	500
	26日	絵本原画展~愛が見える・元気をくれる絵本たち	阪急百貨店	阪急ミュージアム	
財	28日	フレストン・シタデルバンド&タンバリンコンサート	旧居留地協議会	さくら銀行前	300
財	29日	神戸フィルハーモニック	WE LOVE KOBE 元気復興委員会	さくら銀行神戸営業前広場	元気復興ウィーク
	30日	壁画キャンペーンII (富田陽子)	アート・エイド・神戸新委員会	JR三宮駅構内	
	~5月2日	未来集団展-明日への飛翔をめざして	未来集団	兵庫県学校厚生会館	
	~5月10日	升本猛 (メルヘン画家)		ジーニアスギャラリー	

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
財	5月 2日	澤 和樹・弦楽四重奏団	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	500
	3日	メリケンミュージックフェスター走ろう!明日へ向かって	神戸新聞社 他	メリケンパーク	元復興ウィーク
	3日・4日	市内の高校生25人 演劇「VOICE」	KOBE高校演劇合同公演実行委員会	シアターポシェット	
	4日	神戸っ子元だだレミの歌	WE LOVE KOBE 元復興委員会	ハーバーランド スペースシアター	元復興ウィーク
財	4日	ファミリーミュージカル	スタジオOZ	葦合文化センター	
	5日	神戸っ子元だだレミの歌	WE LOVE KOBE 元復興委員会	ハーバーランド スペースシアター	元復興ウィーク
	5日	高ともや 心のコンサート IN 廻	サンケイスポーツ協力	駒ヶ林中学校	元復興ウィーク
	5月 5日	壁画キャンペーンII (谷口 勇)	アート・エイド・神戸新委員会	JR三宮駅構内	
	6日	大島幸子追悼展	アート・エイド・神戸新委員会	海文堂ギャラリー	
	6日	神戸市混声合唱団		神戸文化ホールロビー	
	6日~7日	創作実験劇場	アート・エイド・神戸新委員会	ユース神戸生徒文化センター・朝日ホール	
	7日	中嶋 常乃 (オペラ)		神戸阪急	
	7日	唄けるな!KOBE!!!チャリティーフェスタ	神戸復興を考える市民の会	神戸ファッションマート	
	7日	希望コンサート	毎日新聞社	産業振興センター	
	7日	神戸復興ふれあいコンサート	松の木福祉協会	シーガルホール	
	9日	駒 祐子 + テレマン室内管弦楽団	社会福祉法人「さぼうと21」	ホテルオークラ	
	10日	唄ける実力派、ベテランたちによる神戸からのハーモニー	兵庫県中小企業家同友会	シーガルホール	
	10日~23日	「機械のなかから創造へ」 書画作品展		カーポートギャラリー	
	11日	10万馬力の音楽会in神戸	サンコンサート協会	神戸朝日ホール	
	~14日	フェニックスひょうご美術展(写真展)	神戸新聞社	県民アートギャラリー	
	5月13日~7月1日	グリーンフェスティバル	神戸学院大学	メモリアルホール	
財	13日	さわやかコンサート	梶川 純司 (広島)	葦合文化センター	100
財	14日	千住真理子ヴァイオリンリサイタル	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	500
	14日	小女 (パンソリ)		西神戸YMCA	
	14日	北区チャリティーコンサート	北区在住音楽家中心のコンサート	北区民センター・すずらんホール	
	16日	鮫島有美子 (ソプラノ)	復興の街へ実行委員会	神戸朝日ホール	
	16日	神戸っ子元だだレミの歌	WE LOVE KOBE 元復興委員会	ハーバーランド スペースシアター	元復興ウィーク
財	17日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸文化ホールロビー	500

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
	17日～6月11日	「復興をめざして・近代洋酒の名作」展	神戸新聞社 他	神戸阪急ミュージアム	
	5月 19日～24日	「風のなかの街」公演	県立ピッコロ劇団	ピッコロシアター	
	20日	ジャズフェスティバル	チアー・アップ・コウベ	海の広場(ハーバーランド)	
	20日	柳 功(俳優)、劇団「円」		市立瀨川中学校・市立真野小学校	
	20日	ポール・モーリア作曲の CD「カルテッド・フォー・神戸」がビー・キャノンより発売			
	21日	神戸山手女子短大音楽科		新神戸OPA 1階 アベニュー広場	
	21日	万人の心に響け!愛と希望と感動の音楽を 小林 研一郎(指揮者) 神戸シンフォニカー管弦楽団	朝日新聞社	神戸朝日ホール フェスティバルホール	
財	24日	ロンドン交響楽団	ロンドン交響楽団	西山記念会館	700
	5月 25日	ジュリアード音楽院チャリティコンサート	'95ひょうごインビテーション	神戸朝日ホール	
	25日	能を観る会	能楽協会神戸支部	湊川神社神能殿	
	25日・26日	劇団演・劇団ユーゴザハ(ロシア)	神戸労演	シーガルホール	
	27日	関西歌劇団・関西二期会	関西歌劇団・関西二期会	アルカイクホール	
	27日	こころの響き 大江光作品集から	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	
	27日	五木 ひろし(歌手)	神戸新聞社(後援)	大正筋商店街跡地	8,000
	27日	たそかれコンサート	神戸青年仏教徒会 他	兵庫中学校	
	27日・28日	「KOBE*HEART 1995」ライブ・コンサート		新開地劇場	
	28日	神戸元気ロックコンサート	UCC上島珈琲 他	UCC上島珈琲ビル「イベント広場」	
	28日	愛田かずや(演歌歌手)		レバンテホール	
	28日	フレッシュコンサート	神戸音楽倶楽部	西区民センター	
	28日	フォークライブコンサート“よみがえれ”神戸		シアターポシェット	
財	29日	フォルクローレグループ「ス・デル・アンデ」	日本ラテンアメリカ文化交流協会アミーゴ本部	神戸朝日ホール	500
	29日	トーク&報道写真展&児童画展〜がれき、乗り越えて	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸朝日ホール	
	31日	神戸クラシック・エイド ロリン・マーゼル(指揮者) ピッツパー管弦楽団	同実行委員会	グリーンアリーナ神戸	4,000



	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
	6月 3・10・17・24日	「KOBE*HEART 1995」ライブ・コンサート		新開地劇場	
	3日・4日	ライブ・アット・ヒーリングキャンプ・イン・榊		ジーベックホール	
	4日	壁画展「キャンパスⅣ（にしむらゆうり）アート・エイド・榊新観覧		三宮ステラビル	
	7日	カーガラス復興チャリティコンサート	神戸大学	シアターポシェット	
	10日	五嶋 みどり（バイオリン）		神戸朝日ホール	
	10日	もとまち寄席 恋雅亭		風月堂ホール	
	10日	紙芝居「世界の初めと終わり」東野健一（画家）		湊川中学校	
	10日・11日	神戸元気復興祭	神戸青年会議所	メリケンパーク 等	
	13日～15日	チ・ボラグ（馬頭琴）		すま・みどりのアート村	
	15日	「書を世界に」望月 美佐（前衛書家）		生田神社会館	
	17日	桑原 康雄（マンドリン）		兵庫県民小劇場	
財	17日	観音経によるチャリティコンサート	アート・エイド・榊新観覧	西区民センター	
	18日	安藤義則（ジャズアーティスト）他	神戸YMCA	風月堂ホール	
	18日	希望コンサートⅡ	毎日新聞社 他	産業振興センター	
	18日	志賀 清（ヴァイオリン）	アート・エイド・榊新観覧	シーガルホール	
財	20日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	神戸朝日ホール	
	20日～25日	保田 治（画家）		ダイヤモンドギャラリー	
	22日	「春色の城」劇団東京芸術座、劇団新組合公演	神戸労演	シーガルホール	
	25日	観音・ピースフェスティバルコンサート	兵庫のうたごえ協議会	神戸朝日ホール	
	25日	「GHETTO/ゲット」上演	兵庫現代芸術劇場	新神戸クリエイティブ劇場	
	27日～29日	稲・ブライアン・ギブソン	藤田観光（東京都）	御影中学校	
	29日	「翼をください」上演	青年劇場	シーガルホール	

	7月 2日	神戸を愛するハーモニー	神戸市民交響楽団	神戸朝日ホール	
	2日	ドリーム・船上コンサート	阪神音楽文化協会	ルミナス神戸2	
財	4日	ビリー・ヴォーン楽団		シーガルホール	
	5日	元気・復興コンサート	東京銀行	東京銀行神戸支店1F	
	6日	復興の街へ「淡路人形浄瑠璃」	兵庫県文化協会	兵庫県民小劇場	

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
	7月7日	神戸市室内合奏団第55回定期演奏会	市演奏協会	神戸朝日ホール	
財	9日	リ・アンサンブル	阪神大震災復興義家会	県立兵庫高校	
	14日	ホーネック(ヴァイオリン)	神戸新聞社 他	神戸朝日ホール	50
	15日	震災復興に向けて ― 洋画名作展	都市整備公社こうべまちづくりセンター	こうべまちづくり会館ギャラリー	
	16日	東京交響楽団	読売新聞大阪本社	西山記念会館	
	17日	堀 郁子 (シャンソン)	堀郁子シャンソン企画	新神戸オリエンタル劇場	
	17日	伍 芳 (中国琴・古箏)		TEI・TE新神戸オーパ店	
財	17日	リ・アンサンブル	阪神大震災復興義家会	市立湊川中学校	60
財	18日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	県立兵庫高校	300
財	18日	丸山久・美しき日本の歌	丸山音楽事務所	市立福住小学校	50
財	19日	丸山久・美しき日本の歌	丸山音楽事務所	市立青陽養護学校	50
財	20日	丸山久・美しき日本の歌	丸山音楽事務所	市立長田公民館	50
	20日~22日	神戸みなと夏まつり		神戸ハーバーランド スペースアター	
財	22日	リ・アンサンブル	阪神大震災復興義家会	市立駒ヶ林中学校	50
	22日	ジャズパーティ	原田 靖	かんしんホール	
	29日~31日	睦友好両国少年児童作品展	兵庫県中教協文化交流会	兵庫県会館アートギャラリー	
	30日	大和 松蒔 (地唄舞)	湊川神社神能殿	湊川神社神能殿	
	30日	大和松蒔「舞い」によせて	アート・エイド・神戸実行委員会	湊川神社神能殿	
財	30日	UCCカフェコンサート'95夏	UCC上島珈琲	神戸朝日ホール	

	8月 4日	神戸フェニックス・ジャズ・フェスティバル (米・パークリー音楽大学教師や卒業生)	甲陽音楽学院	神戸朝日ホール	
	5日	壁の中の妖精	神戸労連	シーガルホール	
	8日	下町か好きやねんフェスティバル	神戸YMCA 地元ボランティア	大正筋商店街 等	3,000
	8日・9日	オックスフォード大学演劇協議会「十二夜」上演	新神戸シアター・フェスティバル協会	新神戸オリエンタル劇場	
	9日~11日	写真展「心でとらえた風と音の詩」		兵庫銀行長田支店	
財	12日	日本をすくえ'95	泉谷基金(泉谷しげる)	メリケンパーク	11,000
	13日	「タルミ・バイオリンズ」廻り 他		産業振興センター	
	13日	グローバル・ライターズ・ミーティング		明親小学校	

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
	8月13日	震災復興公演「人形の家」	グローバルフュージョン事務局	シーガルホール	
	13日	フランス・オパール(ホルン)	アート・エイド・神戸新委員会	西山記念会館	
財	14日	中田喜直の宇宙 ~夏の思い出に	アサクラビルコンサート 企画	西山記念会館	700
	15日	震でくなられた皆様のをこに捧げる・童謡の集い	アート・エイド・神戸新委員会	県民会館9Fホール	
	17日	河野 康弘 (ピアノ)		川井公園横尾公民館 他	
	18日	神戸アゲインコンサート	サンテレビジョン	神戸市立中央体育館	
財	19日	柳家小三治落語会		シーガルホール	450
	18日・19日	神戸パーカッションフェスティバル	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	500
	20日	クリスティアン・エンゲル (ピアノ)	フェリシモ、朝日新聞社	神戸朝日ホール	
財	23日	テレマン室内管弦楽団	日本テレマン協会	兵庫県公館	500
	26日	希望コンサートⅢ	毎日新聞社 他	産業振興センター	
	27日	俺だけのヒットパレード	もんたよしのり	メリケンパーク	
	27日	ドリカムワンダーランド 95	ドリカム	グリーンスタジアム神戸	25,000
	29日	「こうのとり はかき・パル」鑑賞	JR西日本応援団	中央区内ホテル	
	~9月10日	ジョルジュ・ルース(蘇)	フランス州楯・焼燗	ギャラリー「夢創館」	
	31日	神戸ハワイアンクラブ	神戸ハワイアンクラブ	北野ホテル	50

財	9月 1日	ジャズ・コンサート		神戸文化ホール	1,500
財	5日	「がんばろう神戸 震災復興」公演	能楽教会神戸支部	神戸文化ホール	910
	~5日	震災復興チャリティ美術展	朝日カルチャーセンター	大丸神戸店特設会場	
財	8日	音楽座 ミュージカル「とつてもゴースト」公演		神戸文化ホール	1,560
	9日	村上 春樹 自作朗読会		兵庫県民会館	
	10日	コープこうべ音楽のついで	コープこうべ	コープこうべ文化ホール	
	16日	松竹百年記念・松竹新大震災チャリティ公演	松竹	神戸文化ホール	
	17日	民謡チャリティコンサート	日本民謡兵庫県連合会	神戸文化ホール	
	~30日	納健・福永祥子詩画展		喫茶ギャラリー「あいうえお」	
	20日	カルテット神戸とウィーンの仲間たち	アート・エイド・神戸新委員会	産業振興センター	
	20日・21日	もっとずっと きっと がんばろう神戸イベント	フェリシモ・朝日新聞社	神戸朝日ホール	

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
	9月21日	アート・エイド・神戸チャリティコンサート	アート・エイド・神戸新委員会	神戸バプティスト教会	
	23日	風呂本佳苗ピアノリサイタル	アート・エイド・神戸新委員会	神戸朝日ホール	
	24日	アンリ翻訳チャリティジャズコンサート	よみうり文化センター	神戸文化ホール	
財	24日	JAZZ IN SEISHIN		西区民センター	350
	27日	復興の街へ「第5回フルトとハーブの夕べ」	県文化協会	兵庫県公館	
	29日	神戸芝居カーニバル 片桐 はいりー人芝居	神戸芝居カーニバル実行委員会	シーガルホール	
財	30日	「オーケストラ・アジア」日本公演	オーケストラ・アジア新委員会	神戸文化ホール	1,000

	10月1日	長田発〜アジア秋祭り	曹洞宗国際ボランティア会	菅原市場	
	3日~15日	元気 HA KOBE ころのとり	神戸市 他	王子市民ギャラリー	
	5日~10日	ハ・ートリオ展 神戸編		デュオギャラリー	
	6日	玉置浩二「正義の味方(ヒーロー)ツアー」神戸公演		神戸文化ホール	
	7日~11日	グラハム・クラーク(鋼琴家)		海文堂ギャラリー	
財	7日	ストーリーを奏でるピアノコンサート	サークルT. I	産業振興センター	373
	7日	ミュージカル「Dream of Music」	劇団おもちゃ箱	シーガルホール	
	7日	いつでも夢を... KOBEアゲイン... 歌謡コンサート 橋幸夫・伍代夏子・天童よしみ	AM KOBE KOBEアゲイン事務局	神戸市立中央体育館	
	10月7日~11月11日	「学校ササギをつかまえる」巡回劇公演	兵庫県立ピッコロ劇団	ピッコロシアター 他	
	9日	和太鼓「鼓童」コンサート		神戸朝日ホール	
	9日	神戸芝居カーニバル -インドと日本の紙芝居	神戸芝居カーニバル実行委員会	県私学会館	
	10日	'95 錦秋に舞う民舞の会	民舞かおる会	神戸文化ホール	
	11日	テオフィルス・アンサンブル IN 神戸	アート・エイド・神戸新委員会 他	神戸風月堂88	
財	13日	東京芸楽団「十二人の怒れる男たち」公演		神戸文化ホール	1,845
	14日~	'95神戸学院大学グリーンフェスティバル	神戸学院大学	神戸学院大学メモリアルホール	
	15日	アンサンブル・ムッケ1stコンサート	アート・エイド・神戸新委員会	北区民センター	
	15日	アルカディア・トリオ・ウイーン (ピアノ)		長田防災コミュニティーセンター	
	15日	金子 浩三 (ピアノ)		ピッコロシアター	
	15日	一人芝居「身世辨」1500回 公演		朝銀兵庫信用組合本店	
	17日	メモリアルカバネストリー「希望」 音韻	西陣織工業組合		

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
財	10月17日	島田正吾 ひとり芝居「白野弁十郎」公演		神戸文化ホール	865
	21日	レックス・バンド(バブアニューギニア)コンサート		セリオ・パティオ	
	22日	ワールド・ミュージック・フェスティバル・ イン・神戸 95レインボー・ロケツ	国際音楽家阪神大震災 基金	ワールド記念ホール	6,000
財	23日	日本フィル「被災地に音楽を」	アート・エイド・神戸実行委員会	ポートピアホテル 他	
財	24日	日本フィルと関西の仲間たち「港の風に寄せて」	アート・エイド・神戸実行委員会	産業振興センター	311
財	25日	日本フィル「被災地に音楽を」	アート・エイド・神戸実行委員会	ホテルオークラ神戸他	
	26日	道化座「小蓮の恋人たち」再公演	アート・エイド・神戸実行委員会	新神戸オリエンタル劇場	
	26日	震災復興マンガ展	ふゅーじょんぷろだくと(マンガ雑誌社)	復興産村 「パラール」	
	10月27日~11月5日	'95 第8回KOBE 国際映画祭	KOBE国際映画祭実行委員会	神戸ハーバーランドニューオータニ 他	
	30日	能・狂言の会「鏡魂のうた・そして来へ」	京都造形芸術大学	湊川神社神能殿	1,500
		CD-ROM 「DAWN(黎)-from KOBE to KOBE」発売			

	11月1日~5日	アート・パワー展 (横尾忠則, 細野暁臣)	同実行委員会	神戸ファッションマート9Fイオホール	
財	1日	童謡・弘田龍太郎の世界	豊田借子・須藤恵美	北須磨文化センター	250
財	3日	童謡・弘田龍太郎の世界	豊田借子・須藤恵美	しあわせの村	250
	3日~5日	壁画キャンペーンV	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸市役所	
	4日	レーナ・マリア	神戸YMCA	神戸文化ホール	
	4日	東京佼成ウインドオーケストラ	明るい社会づくり運動全国協議会	生田神社	
	5日	一絃琴演奏会	神戸あけぼの会	シーガルホール	
	~15日	神戸の百人色紙展	神戸芸術文化会議	大丸神戸店	
	11日~12月23日	「バルビゾンの発見」展	県立近代美術館 他	県立近代美術館	
	18日	神戸芝居カーニバル -藤田佳代ダンス(洋舞)	神戸芝居カーニバル実行委員会	シーガルホール	
	18日	藤田佳代の世界・切り拓かれる舞踏芸術の地平	アート・エイド・神戸実行委員会	シーガルホール	
	21日	こうべ朝日ホール能	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸朝日ホール	
	25日	「KOBE*HEART」コンサート		ハーバーランドスペースシアター	
	28日	名倉 誠人 (マリソバ)	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸朝日ホール	

	日 時	イベント名・出演者	主 催 等	会 場	参加者数
	12月 1日	張 雷 (竹笛)		国際会議場メインホール	
	2日	風 かおる (ソウゾウ)		神戸朝日ホール	
	3日	神戸管カニコンパニ近藤等則(トランペット)	神戸管カニコンパニ新委員会	神戸朝日ホール	
	6日~11日	著名芸術家と名士作品展	神戸新聞社 他	神戸阪急ミュージアム	
	7日	アロージャズオーケストラ		新神戸オリエンタル劇場	
	14日・15日	朝倉 まみ(ソウゾウ)		こうべ文化生活センター, 曙コミュニティセンター	
財	15日	盛 中国 ヴァイオリンコンサート	アート・エイド・神戸実行委員会	産業振興センター	325
財	16日	盛 中国 ヴァイオリンコンサート	アート・エイド・神戸実行委員会	六甲I南ふれあいセンター	90
	19日	クリル・コリ&ザ・パツン(ゴスペルジャズ)		新神戸オリエンタル劇場	
	22日	弓張 美季 (ピアノ)	アート・エイド・神戸実行委員会	神戸朝日ホール	
	24日	プラスクインテッド「プラスモ」	神戸新聞社 他	神戸朝日ホール	
	26日	マイカル・吉本ミュージカル劇団「モーリーモー」		神戸文化ホール	
	26日	ハープ演奏者激励コンサート		養護施設信愛学園	
	31日	リ・アンサンブル シルバスターコンサート	アート・エイド・神戸実行委員会	六甲幼稚園	



# Culture Now

あれから一年  
て、あと一  
続返る年ま  
先を振りか  
五月か  
動きを追  
った(文中・敬称略)。



五月・前月に引き続き各種チャリティコンサートが多数開催された。二日、垂水勤労市民センター開館。十一日、神戸市復興計画に文化の視点を加えるため、神戸市文化指針検討委員会が緊急提言。骨子は、市民と芸術家の交流が図られるタウン文化工房の整備など六項目。十六日、皇后陛下の希望により実現した復興の街へシリーズ開催(復興の街へ実行委員会主催)。第一回は鮫島有美子のコンサートから始まった。十七日からは、当時休館中の県立近代美術館・市立博物館・市立小磯記念美術館・芦屋市立美術館・西宮市大谷記念美術館の五館が神戸阪急ミュージアムと共催で「復興を目指して・日本近代絵画の名作」を開催し、各館蔵の逸品が一堂に会した。十九日、映画サークル例会再開。朝日ホールで「永遠の愛に生きて」。二十一日・二十二日、神戸まつりの中止を受けて、市民・商店街等による神戸五月まつり開催。サンパチームのバレードも。二十四日、ロンドン交響楽団ピックアップメンバー、ラベック姉妹らによる激励演奏会(西山記念会館)に長蛇の列。二十七日、長田区大正筋での五木ひろしチャリティコンサートに五千人以上。二十八日、第十一回日本アマチュアシャンソンコンクール神戸大会開催(産業振興C)。二十九日、ポリアのフォルクローレグループス・デル・アンデチャリティコンサート(神戸朝日H)。三十一日、ノ

神戸クラシックエイド/ロリン・マゼール

リツシヨールーム・NOVANOがタウンギヤラリー再開。同日、ロリン・マゼール指揮・ピッツバーク交響楽団によるチャリティコンサート神戸クラシック・エイド(グリーンアリーナ神戸)に三千人。応募は一万五千人に達した。六月・ヒールンゲ(癒し)の再興。同日、ロリン・マゼール指揮・ピッツバーク交響楽団によるチャリティコンサート神戸クラシック・エイド(グリーンアリーナ神戸)に三千人。応募は一万五千人に達した。六月・ヒールンゲ(癒し)の再興。同日、ロリン・マゼール指揮・ピッツバーク交響楽団によるチャリティコンサート神戸クラシック・エイド(グリーンアリーナ神戸)に三千人。応募は一万五千人に達した。

リツシヨールーム・NOVANOがタウンギヤラリー再開。同日、ロリン・マゼール指揮・ピッツバーク交響楽団によるチャリティコンサート神戸クラシック・エイド(グリーンアリーナ神戸)に三千人。応募は一万五千人に達した。六月・ヒールンゲ(癒し)の再興。同日、ロリン・マゼール指揮・ピッツバーク交響楽団によるチャリティコンサート神戸クラシック・エイド(グリーンアリーナ神戸)に三千人。応募は一万五千人に達した。六月・ヒールンゲ(癒し)の再興。同日、ロリン・マゼール指揮・ピッツバーク交響楽団によるチャリティコンサート神戸クラシック・エイド(グリーンアリーナ神戸)に三千人。応募は一万五千人に達した。



ヒールンゲ/ロリン・マゼール

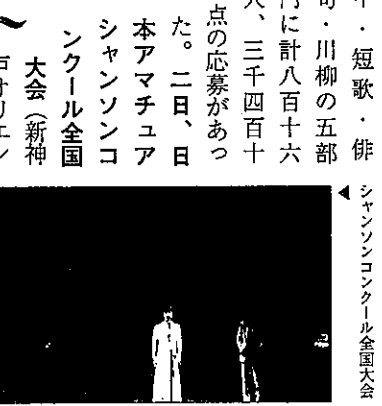
## ふりかえる、あれから1年PART II



▼日本をすくえ'95 INメリケンパーク  
舞コンクール(新神戸オリエンタル)。時期もずらした上に、例年の神戸文化ホールから会場を変更して開催にこぎつけた。十一日から、小磯記念美術館外展「小磯良平展」(阪急ミュージアム)。十二日、日本をすくえ'95 INメリケンパーク。泉谷しげるの呼びかけで奥田民生ら人気ミュージシャン十三組が一堂に会し、二万五千通を超える応募の中から選ばれた一万一千人が参加。灼熱の太陽の下、熱いメッセージを受け取った。十五日、県立近代美術館再開。終戦五十年を記念し、戦後の文化を振り返る「戦後文化の軌跡」展を開催。同日、「夏の思い出」の作曲者によるチャリティコンサート中田喜直の宇宙(西山記念会館)。十八・十九日、神戸パークカッショソフエスタ。スチールドラムとナナバスのパークカッションが街に響いた。十九日、こうべ海の盆(メリケンパーク)。追悼と復興の夕べに延べ五万人。二十二日から新神戸ニューウェーブ・シアター(新神戸オリエンタル)。関西の三つの小劇団が参加。リジョイス(再び喜びを)をテーマに元氣の出る芝居をラインアップ。二十三日、二月から続けられたテレマン室内管弦楽団による慰問演奏会が十回目の演奏会で区切りをつけた。二十七日、スチューデントジャズフェスティバル(西山記念会館)。開催が危ぶまれたが、広島から千葉まで十八校のビッグバンドが集い、熱演した。同日、俺らだけのヒットパレード(メリケンパーク)神戸出身のものたしのりらが出演。九月・一日、芸術文化の秋の前に神戸文化ホール(大・中)が再開。文化復興に大きな弾みをつけた。再開後は、ポリアンティア公演として、ジャズ・能・演劇等五公演を市民無料招待し、再開を待

### ~文化施設の復旧などを中心に~

イ・短歌・俳句・川柳の五部門に計八百十六人、三千四百十人の応募があった。二日、日本アマチュアシャンソンコンクール全国大会(新神戸オリエンタル)。全国五地区の予選をクリアした三十五組が競い、最優秀歌唱賞には神戸市在住の井村朋子が選ばれた。九日、震災で自らも被害を受けた個人演奏家の集まり「リ・アンサンブル」が兵庫高校で旗揚げ演奏。個人・法人からの出資を募り、被災地での慰問演奏会の経費に充当する方法で、昨年末までに各地で十七回の演奏会を開催した。兵庫県が神戸市内で建設する新美術館の基本構想を発表。二十一日、震災後初めてのKOBEBFレスシユコンサート(北須磨文化C)。八月・初盆を迎えることもあり、追悼の意を込めた大きなイベントが続いた。三日、神戸全国洋



舞コンクール(新神戸オリエンタル)。時期もずらした上に、例年の神戸文化ホールから会場を変更して開催にこぎつけた。十一日から、小磯記念美術館外展「小磯良平展」(阪急ミュージアム)。十二日、日本をすくえ'95 INメリケンパーク。泉谷しげるの呼びかけで奥田民生ら人気ミュージシャン十三組が一堂に会し、二万五千通を超える応募の中から選ばれた一万一千人が参加。灼熱の太陽の下、熱いメッセージを受け取った。十五日、県立近代美術館再開。終戦五十年を記念し、戦後の文化を振り返る「戦後文化の軌跡」展を開催。同日、「夏の思い出」の作曲者によるチャリティコンサート中田喜直の宇宙(西山記念会館)。十八・十九日、神戸パークカッショソフエスタ。スチールドラムとナナバスのパークカッションが街に響いた。十九日、こうべ海の盆(メリケンパーク)。追悼と復興の夕べに延べ五万人。二十二日から新神戸ニューウェーブ・シアター(新神戸オリエンタル)。関西の三つの小劇団が参加。リジョイス(再び喜びを)をテーマに元氣の出る芝居をラインアップ。二十三日、二月から続けられたテレマン室内管弦楽団による慰問演奏会が十回目の演奏会で区切りをつけた。二十七日、スチューデントジャズフェスティバル(西山記念会館)。開催が危ぶまれたが、広島から千葉まで十八校のビッグバンドが集い、熱演した。同日、俺らだけのヒットパレード(メリケンパーク)神戸出身のものたしのりらが出演。九月・一日、芸術文化の秋の前に神戸文化ホール(大・中)が再開。文化復興に大きな弾みをつけた。再開後は、ポリアンティア公演として、ジャズ・能・演劇等五公演を市民無料招待し、再開を待



ちかねた市民で一杯になった。十八日、神戸国際会館の再建基本構想発表。地上二十階地下三階建てに。十九年春完成予定。二十九日、神戸芝居カーニバルが片桐はいりのひとり芝居「ベンチャーズの夜」からスタート。十二月初めまでに五公演。三十日、オーケストラアジア神戸公演。アジアの楽器だけで編成する異色のオーケストラの公演。招待の千席は、市民で一杯になった。



オーケストラ アジア公演

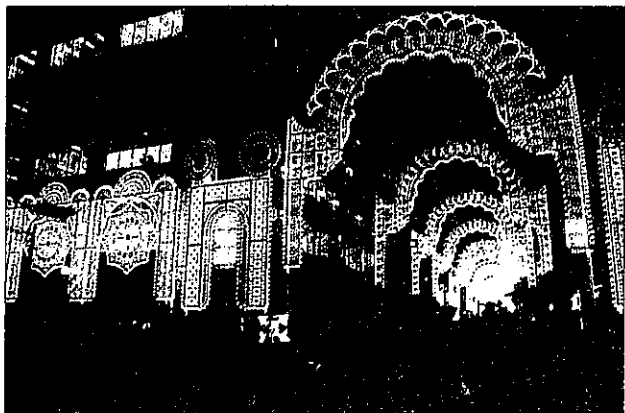
十月、芸術文化の秋を迎え、コンサート・行事が市内各地で多数開催された。三日、小磯記念美術館が再開し、企画展「薬用植物画展」を開催。同日、近代美術館がジャンルを超えて収蔵品を展示した企画展「コレクシヨン大研究」を開催。十四日、十五日、KOBELジャズストリート。三宮から北野までのパレードも実施し、復興途上の街に、陽気なジャズが響いた。

運営の市民ボランティアと地元北野町が一体となったイベントに全国から五千五百人のファンが参加した。十二日、ワールドミュージックフェスティバルイン神戸'95(ワールド記念日)。音楽で心を癒すため、神戸で演奏したいとハービー・ハンコック、渡辺香津美、小菅根真らのジャズミュージシャンが出演。大学・高校生を中心に六千人が招待された。二十七日から、KOBEL国際映画祭。「人間—この素晴らしき仲間たち」をテーマに十二作品を上映。同日、神戸労働例会再開。文化ホール中ホールで「ブンナよ木からおいでこい」。三十日、市立港島小学校コーラス部がNHK全国音楽コンクール金賞受賞。県下の小学校では初の金賞受賞だった。



KOBELジャズストリート

十一月一日から「アートパワー展」(神戸ファッションマートイオH)。横尾忠則と細野晴臣のコラボレーション。絵画と音楽が市民の心を癒すことになれば、とボランティアによる実行委員会での開催だった。同日、P&G本社にタウンギヤラリーオープン。震災後に新設された初のタウンギヤラリー。六日、神戸市文化賞、文化奨励賞、文化活動功労賞を発表。文化賞受賞者は、洋画家の長尾和、交通土木工学の米谷栄二、建築学の嶋田勝次、出版の本地スマ子の四人。十一日、神戸フィルハーモニック震災後初めての定期演奏会。同日から、近代美術館「パルビソンの発見」。十五日、神戸文化ホー



神戸ルミナリエ

ル入場者千五百万人。開館二十三年目での到達。十九日、震災後、初の兵庫区民寄席。百回を記念し、復興寄席として桂文枝ら人気噺家が高座をつとめた。二十二日、企業の優れた芸術文化支援活動に贈られるメセナ大賞に、全国から応募の百十六社の中から、市内の音響機器メーカーTOAが選ばれた。ジーベックホールでの様々な実験的音楽活動への取り組みが評価されての受賞となった。十二月二日、阪急会館1・2が仮設ビルで営業再開。六日、神戸国際会館ハーバランドプラザオープン。神戸でのポピュラー系コンサートの開催が期待される。十五日から、光の芸術・神戸ルミナリエ開催。二十三日、三宮東映・東映プラザ再開。センタープラザ六階には、シネ・フェニックス1・2・3がオープン。三宮地区の映画館は十二館にまで回復した。

<参考資料>

## 5 近接他都市の文化関係施設の動き

なお、データはいずれも各市の市会図書館、行政資料センターで閲覧可能な資料から抜粋したものであるため、すべてを網羅しているものでないことをお断りしておきたい。

京都市のデータは「文化市民局の事業概要」から抽出、大阪市のデータは各部局の事業概要等にはほとんど実績数値等の記載がないため、「大阪市統計書」「大阪市の社会教育」などの資料から抽出した。

### (1) 京都市の文化関係施設の利用状況

#### ●京都コンサートホール

平安建都1200年記念事業の一つとして建設され、平成7年10月15日に開館したコンサートホール。

(上段: 公演件数、下段: 入場者数)

施設名	収容員	平成7年度 10/12-3/31	平成8年度	平成9年度	平成10年度
京都コンサートホール・大ホール (コンサートホール)	1839名	推計(160) 80	173	140	141
		推計219,064) 109,532	220,674	172,601	165,521
小ホール (アンサンブルホール ムラタ)	514名	推計(144) 72	158	151	135
		推計(54,212) 27,106	51,830	47,946	42,036
合計	—	推計(304) 152	331	291	276
		推計273,276) 136,638	272,504	220,547	207,557

\*推計( )は、年度途中での開館のため、2倍にして年度換算推計したものである。

京都市の中核的なホールの一つである京都コンサートホールの利用状況の推移をみると、大ホール・小ホールともに平成8年度以降公演件数・入場者数いずれも減少傾向にある。

平成10年度は平成8年度比、件数ベースで▲17%減、入場者ベースで▲24%減と、大幅な減少となっている。

経済不況の影響も若干関係しているのかとも思われる。

●京都会館

収容定員2,000名を超える府内唯一の文化施設で、京都市民の文化センター。  
(単位：件数)

施設名	収容額	平成5年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
京都会館第一ホール	2015名	367	(241)	302	278
第二ホール	946名	284	(182)	237	221
(S35.4 開館) 合計	—	651	(423)	539	499

\*平成8年度は3カ月間  
工事のため休館

京都会館においても、京都コンサートホールと同様、第一ホール・第二ホールともに減少傾向を辿っている。

平成10年度は神戸市における震災前に当たる平成5年度比、▲23%減となっている。

●地域文化会館

地域の日常的な文化芸術活動の振興を図る拠点となる文化会館。

(ア) 地域文化会館・ホール関係

(単位：件数)

施設名	収容額	平成5年度	平成8年度	平成10年度
アバンティホール (S59.4.1 開館)	362人	309	254	259
東部文化会館ホール (S62.4.1 開館)	605人	173	137	151
呉竹文化センターホール (H2.8.15 開館)	600人	204	185	208
小計	—	686	576	618

<平成5年度以降に開館した地域文化会館> (単位：件数)

施設名	収容額	平成5年度	平成8年度	平成10年度
西文化会館ウエスティ ・ホール (H5.8.16 開館)	448人	(63)	129	141
北文化会館・ホール (H7.6.1開館)	405人	—	160	169

神戸市における区民センターに類するホールである地域文化会館のホールの使用状況をみると、平成5年度以降に開設されたものは経年比較がしにくいので、平成5年度以前に開設されたホールで比較すると、使用件数が減少傾向を辿っている館が2館、一端減少してまた少し上向きになっている館が1館となっている。

3館合計では平成10年度は平成5年度比、▲10%減となっている。

新しく開館された会館では、堅調な推移をししており、地域の会館の立地条件や施設の使い良さ、設備の状況、周辺人口の状況などにもよるところが大きいので、違いが出てきているのかとも考えられる。

●地域文化会館・創作活動室関係

(単位：件数)

施設名	開館日	平成5年度	平成8年度	平成10年度
東部文化会館 創作活動室	S62. 4.1	548	530	520
呉竹文化センター 創作活動室	H2. 8.15	501	501	432
小計	—	1,049	1,031	952

<平成5年度以降に開館した地域文化開館>

(単位：件数)

施設名	開館日	平成5年度	平成8年度	平成10年度
西文化会館ウエスティ 創作活動室	H5. 8.16	(170)	464	514
北文化会館 創作活動室	H7. 6.1	—	390	342

同じく地域文化会館の創作活動室の使用状況をみると、平成5年度以前に開設された館で比較すると、いずれも減少傾向を辿っている。

平成10年度は平成5年度比、▲9%減となっている。

●京都市美術館

(単位：人)

施設名	種別	平成5年度	平成8年度	平成10年度
京都市美術館	有料入場	368,872	311,545	309,543
	無料入場	513,996	403,369	506,492
	合計	882,868	714,914	816,035

京都市美術館の入場者の状況については、神戸市の所でも触れたように特別展等の開催状況によって大きく異なってくるので、一概に比較しにくいですが、左記のような状況となっている。

●各種団体文化活動助成事業関係

(単位：件数)

施設名		平成5年度	平成8年度	平成10年度
各種団体文化活動 助成事業	共催	24	13	14
	後援	228	227	217
	合計	252	240	231

各種団体文化活動助成事業の件数の推移をみると、減少傾向にある。平成10年度は平成5年度比、▲8%減となっている。

(2) 大阪市の文化関係施設の利用状況

「大阪市統計書」「大阪市の社会教育」より抽出  
平成10年度データを掲載した成果物がまだ未発行のため、平成9年度データを使用。

施設名		平成5年度	平成8年度	平成9年度
大阪市立美術館	入場者数	507,954人	873,734人	600,170人
大阪市立博物館	入場者数	85,819人	313,614人	108,832人
大阪城ホール館	収容定員 16,000名	1721,052人	1801,155人	1615,005人

市立美術館・博物館については、京都市の所でも触れたように特別展等の開催状況によって大きく異なってくるが、左記の状況である。

大阪城ホール館については、増加傾向にあったが、平成8年度からは減少に転じ、平成9年度は平成8年度比、▲10%減となっている。

大阪市 中央公会堂	(使用件数) 舞台	3,649件	3,770件	3,983件
大阪市立 大阪城音楽堂 (使用件数)	リハーサル室	194件	214件	211件
	舞台	63件	58件	66件
大阪市立 中之島音楽堂	(使用件数) 舞台	93件	83件	106件

市立中央公会堂・音楽堂等については、比較的堅調な動きで推移している。

## 6 「神戸の市民文化活動の復興状況」

特集記事関係（「K O B E C 情報」平成12年2月号より）

平成12年1月20日発行第207号（毎月1回・20日発行）無料

# KOBE C 情報

美術/音楽/演劇/催し

★C情報のホームページ <http://www.sakura-utopia.ne.jp/kobe/kobe-c/>

★ハローズステーションKobe Faxサービス☎078(362)7800のあと番号ガイドに従ってC情報メニューコード「210」をプッシュしてください。ご自宅のFaxでC情報を取り出せます。

★「夕暮れC情報」毎週木曜日17:18～23 コミュニティFM局 FMわいわい(エリア・兵庫～須磨あたり・77.8MHz)でON AIR中。

★情報サービス「神戸はいからCity Walk」(インターネットからは<http://halkera.kimcc.ne.jp/>、iモードからは<http://halkera.kimcc.ne.jp/imode/>)にアクセスすれば、メニューの1つ、「シティカレンダー」の中にC情報の内容が掲載。(3月31日まで)

'00 FEB. 2

社団法人  
神戸市民文化振興財団  
〒651-0096  
神戸市中央区雲井通5丁目3番1号  
サンパル8階 ☎078(222)7105



C情報は、古紙配合率50%の再生紙を使用しています。

## 神戸の市民文化活動 復興への取り組みが新しい光を呈す

**あ**の忌まわしい阪神・淡路大震災から5年が経ちました。震災は、市民生活や社会経済活動全体を根底から覆す大きな打撃を与えましたが、文化の面でも神戸文化のハード・ソフトの両面に対して大きな被害を及ぼし、多くの文化事業を進める場が失われただけでなく、市民が文化を享受創造する場と機会が損なわれました。

しかし、その後各種文化施設の修復再建の取り組みが急ピッチで進められると共に、文化関係者・文化活動団体・市民をはじめとした様々な人々の努力でソフト面の文化活動も順次回復してきました。

復興へと立ち上がる中で、震災を契機とした新たな試みや震災前にも増して活動内容が活発化したケースが多くみられるなど、こうした活動が「神戸文化の新しい創造に繋がる明るい光」となってきています。

Culture Now  
カルチャー・ナウ

市民文化活動が震災後どのように復興してきたかを知る一つの手掛かりになればということで、昨年8月に実施した「神戸市文化活動団体調査」の中で、震災後の文化活動の状況についてアンケート調査を同時に実施しました。

「各文化活動団体の活動状況は震災前と比較していかがですか?」との問いに対して、約3割の団体が「現在の方が活発である」と回答、「震災前と変わらない」の約4割を含めると、実に3分の2の団体が震災によって活動が後退したのではなく、活動状況を前向きに捉えられていることがわかります。

この傾向は、音楽や美術、文芸、演劇などの各ジャンル別でも概ね同様の結果を示していました。

各団体が被災した人々の心のケアなど震災復興に向けて文化活動の果たしてきた役割を非常に重要なものと認識され、また結束して「特色ある活動の展開」や「震災体験を風化させないための活動の展開」などに前向きに取り組まれている姿が現れているのではないかと考えられます。

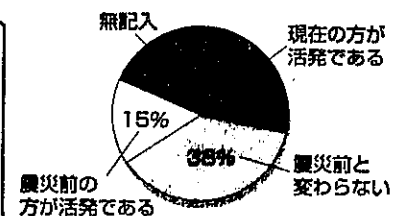
また、各団体の文化活動が被災した人々はもちろん、演ずる側の会員にも生きる勇気や希望を与え、人と人、心の絆を深め合うことの素晴らしさや、地域や社会のために貢献できることの喜びを強く感じられていることも大きく影響しているのではないかと考えられます。

アンケート調査の意見欄にはたくさんの意見が寄せられました。

参考にごく一部を紹介すると…。

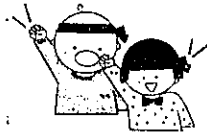
- ・震災を経験し「生きている喜びを、生かされている尊さを」そして多くの死者に対して私たちは何ができるのか辛く困難の連続の中で、倒れる寸前まで頑張りたい、共に生きていることを共有したいと願い、公演活動を続けてきました。震災直後は半減しましたが、多くの方々の支援支持によって震災前より活気を持つまでになりました。
- ・会員の住居全壊等の被害が多数に及び、一時は会員数も激減しましたが、会員相互の励まし合いにより徐々に復活し、一度の併結休刊もなく以前にもまして会員相互の「和」をモットーとして「楽句」の精神を基本に置き、句会・吟行等を実施し会員の親交をより深めています。

震災前後の活動状況の比較



「アート・エイド・神戸」「アクト・コウベージャパン」「アンサンブル神戸」「C.A.P.」「神戸ミュージカル」「元町ミュージックウィーク」などこれまでもC情報で紹介させていただいたように震災後様々な新しい文化活動が生まれ、また震災を契機に新しい試みや息吹がたくさん現れてきています。これらの文化活動は「これからの神戸文化の新しい光」として捉えることができるのではないのでしょうか。

アンケート調査では「震災後の特色ある活動」を記述いただきましたが、その記述から概ね次のような共通点の特徴を見出すことができました。記入された貴重な記述のごく一部もあわせて紹介します。



## 1 社会や地域への貢献活動の継続

- ・毎回公演で障害者、老人施設の人々、被災者等約1,000人を無料招待し、生きる勇気と励ましを与え大変喜ばれています。また「重度心身障害者の集い」など地域のコンサートや、各施設を廻ってのミニコンサートなど地域に根づいた活動を繰り返しています。
- ・各会員がキーボードを持って仮設住宅を回り演奏をしたり、無料のコンサートを開くなどして、音楽が少しでも人々の心になくさめとなることを願い、細々とですが頑張ってきました。

## 2 地域に根ざした活動、地域のまちづくりに寄与する活動の展開

- ・震災後、被災者の心を文化を通して癒していきたいと願い、さらに21世紀の長田の街を若い子供達に託すため、小・中・高校生の参加を図ってきました。区内の高校との連携を強化したり、広く区民の参加を進めるため、絵画展の出品を区民から公募したりしてきました。さらに今年度は長田区のコーラス団体に呼びかけ、合同公演を主催しました。
- ・子どもたちを励ますために、仮設住宅や避難会場などで「がんばれ子どもたち」の人形劇や音楽、お芝居などプロの音楽団体や劇団などと連絡を取り、公演を開催しました。また、子どもを対象にした演劇ワークショップにも参加するなど、地域の中で表現により、子どもたちの日常を取り戻す活動を展開しています。

## 3 支援いただいた外国の都市や日本の各地域の文化団体等との持続的な交流

- ・「がんばってるよ! 子供の日コンサート」を大阪で開催し、多くの被災者を励めました。真面目教育委員会に招かれ震災後団員が転校生としてお世話になったお礼として真面目青少年文化祭で演奏しました。また義援金をいただいた米國カリフォルニア・ユース・シンフォニーを翌年日本に招き、大阪で合同コンサートを開催し大きな友情を築きました。
- ・震災によって犠牲になった震災遺児の心を癒すため子供たちを招待いただいたポーランドとの友好交流を深めるため、ポーランドの少年少女舞踊合唱団との神戸での合同演奏会の共催などを通じて、互いに異なる文化の交流や友情を深める活動を行いました。

## 4 より緊密な他団体との連携、一層深まった会員相互の絆、さらに開かれた団体への転換

- ・稽古場の焼失など、加盟各劇団は大きな痛手を被り、一劇団は休会に追い込まれましたが、劇団員の減少や経済困難を克服しようと、劇団間協力は一段と活発になってきています。また震災を素材にした作品の連続上演など、従来にも増して地域を繋いだ舞台づくりを展開しています。
- ・会員の殆どが被災し、半数の者が家を失い負債などしましたが、生活の中から次第の感動を体験の基盤としていたことが、会員相互の絆を一層強くしました。短歌は見かけの言葉や美辞麗句でなく、心の表現であるとの自覚が連帯感を高め、作歌意欲の向上に繋がっています。

## 5 「震災後の神戸のまち」や「震災」をテーマにして創作した作品を題材にした活動、これらを全国に広げる発信活動の推進

- ・会員出版したルポ「五十年目の劇場・神戸」を出版。それをもとに、朗読劇を全国40カ所以上で上演。震災とは何だったのか、惨禍から得られたものを全国に広げる活動をしています。
- ・兵庫県震災復興のシンボルにちなみ、フェニックスコンサートと銘打った演奏会を年2回～3回のペースで開催しています。震災経験を題材にした楽曲も数多く作曲され、その一部は楽譜出版されたりCDになったりしています。震災復興を願うコンサートも数多く開催又は参加してきました。

## 6 震災後の文化活動を引き続き支援する動き

- ・被災者への緊急支援、チャリティ義演の開催、チャリティコンサートの開催、震災を記録する出版物の刊行、震災後の芸術文化活動の支援助成、工事現場（仮設）への緊急制作…等、神戸の文化復興活動として活動しています。神戸に幻滅としての文化ではなく、人生を糧に彩る真の創造的な芸術文化の風土を作ることを目的に活動しています。

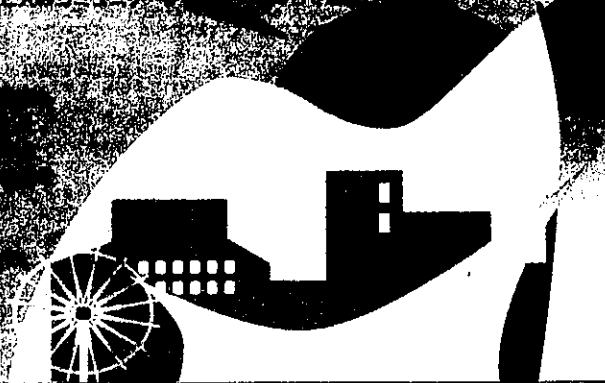
## 7 震災体験を踏まえて新しい芸術文化の方向を模索する取り組みの展開

- ・震災後、これまでより計画的に「ストーリー」を軸とするピアノコンサートを開催し、「震災を記録する出版物の刊行、震災後の芸術文化活動の支援助成、工事現場（仮設）への緊急制作…等、神戸の文化復興活動として活動しています。神戸に幻滅としての文化ではなく、人生を糧に彩る真の創造的な芸術文化の風土を作ることを目的に活動しています。」

「芸術・文化は傷ついた心を癒し、生きる勇気や希望を与え、また被災者と共に元気づけられ、「心のオアシス」とも言うべき大きな心の拠り所となつた。被災した人々の心のケアや、地域や社会への再参加の機会を創出し、文化関係者や団体の芸術文化活動は、「市民の心の拠り所」として大きな役割を果たしてきました。

また、こうした活動を通して様々な人々や地域との絆や協力を深め、この中から新しい文化の芽が生まれ、活動の輪の広がりと繋がって、「神戸市民の大きな財産」であると言えるでしょう。

こうして生まれた芸術文化活動が大きなエネルギーとなって、新しい神戸の文化の創造やまちの発展に必ずや繋がってゆくことでしょう。





震災後5年を迎える

神戸の市民文化復興状況に関する調査

—— 阪神・淡路大震災をはさんだ市民文化活動の動向を中心に ——

平成12年3月発行

編集・発行 (財)神戸市民文化振興財団文化事業部

〒651-0096 神戸市中央区雲井通5丁目3-1サンバル8階

☎ (078) 222-7105 (代表)